明治三十四年一月二十五日發行（明治二十年十一月本會創立）

第三種郵便物認可（明治廿六年四月四日）　毎月一回廿日發行

内務省許可（明治廿一年二月廿八日）

婦人衛生雜誌

第百參拾四號

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百三十四號　目次

講演

皮膚と毛髪の病の話（於本會例會）

醫學博士　土肥慶藏君述

今年は暑氣が隨分長く續きました、皆さんの中には温泉や海水浴など〜避暑旁々いらした方も多からむと存じますが、此頃では早涼しくなりまして、風清く月明かなる夕には高楼に文讀むに宜しく、天高く日麗かなる晨には野邊に草摘むにも宜しい、誠に好い時節でございます、斯く野邊に出て、或は高楼に登りまして、此宇宙にある所の森羅萬象を眺めますると、遠くは日月星晨より、近くは我地球の上にある草木禽獸蟲魚に至るまで、實に細かに見れば觀る程、美麗でありまして、其活動の奇、生育の妙に至りては只驚くばかりです、併し萬物の靈たる人間の身體のことを思ひますと實に是程奇麗に出來たものは世の中にはありますまい、所謂造化の妙を盡したもので、別けても女性の方々は天地間の美を一身に聚めて居られるものかと思ふのです、昔希臘の時代に美と云ふものをば象るのに女神の像を以てしましたのは、誠に所以あることゝ思ひます、

併し人間の美と云ふものは、一體どう云ふものであるかと云ふことを問はれましたならば、之に圓滿な答を與へることは甚だ覺束ないことで、古人も美は天地間の大なる秘密の一であると言ふて居ります、と云ふものは吾々か奇麗なるものに對しますれば誰しも其美しいと云ふことをば感じまするが、併しながら何ふ云ふ譯で奇麗なのであるかと問はるれば、只奇麗じやから奇麗なので、夫れ以上の明瞭なる説明を與へることは出來ないのであります、

希臘人は善と美とを兼ね有ちて始めて理想的の美をなすものと信じて居りました、是れに一理ありませう、譬へば外面如菩薩、内心如夜叉とか申しまして、幾ら玉のやうな容顔でも鬼のやうな怖い心であつたならば、美人と謂ふことは出來ますまい、御婦人方は、此内に潜める心の美をお磨きになると共に、天賦の形態上の美をも十分に保護さるゝふことが、當然の御務めであろふと思ひま形態の美に就きましても、或は手足のつり合とか、顔の形とか申すとに、色々美術家の説もあるとで、美人の標本として最も名高きベヌースと申す愛の女神の像の、一つは以太利の不老連斯に、一つは那破斯にありまして孰れも見事の作ですが、今一つ希臘の古趾より掘りだして今は巴里の「ルーブル」宮殿内の博物館に安置せるものは最も高尚で最も優美であると申すとです、其像は兩手とも欠けて居りますが、之に對しますると少しも柔弱な點がなくて、軆格の美の中に自ら氣高ひ處がこもりて見ゆるです、併しながら是は歐羅巴人の目で觀た美人で、他の人種には亦夫れ〳〵違つた理想があり、又同じ人種でも時代により處によりて、亦大に觀る所を異にするのであります、

即ち或る野蠻の人種は、全身を果實の汁で眞黑ろに染めて、黑ひ上にも漆のやうに黑く見せ、白い處は眼の球と齒のみにて、黑坊主みたやうなのが美人と見做されて居る、又はグレーンランドの婦人の樣に顔を黄と白とに染め分けて美人と思ふて居る人種もある、又は其色の長く褪めぬやうに入墨にして居る人民もある、是れは餘ほど廣く野蠻又は半開の人種に行はるゝ風習で、彼の蝦夷人などにも此習俗があるとは皆さん御承知である、舊幕時代に雲介の唯一の装飾たりし「ほりもの」は今も尚ほ全く跡を絶た

ぬではありませぬか、又ヌビヤ人のやうに顔に指ほど太き瘢痕をつけて美人と心得て居る者もある、是れも餘り笑ふとはできませぬ、何ゆへなれば獨乙の大學の學生は「メンズール」と申して果し合ひをして、顔にきり創の痕がなくては交際社會で持てが悪ひのであります、

又或る蒙昧の人種では、婦人が牛のやうに鼻環を飾りにつけて居るのもある、耳環をつける風習は野蠻人のみならで、半開の支那人も、開明の歐米の婦人も脱し得ないのであります、幸に我國の婦人には肉體を傷けてまで飾ると云ふ悪習のないのは、甚だ悦ばしきとと思ひます、

時代によりて、趣向の變遷する證據は、遠き他國の例を引かずとも、我國で近ひ例が、婦人が眉毛をそり歯を涅むる習慣は、つひ此頃まで一般に行はれて居たので、今も折々往來でそう云ふ婦人を見うけますが、最早何だか見なれぬ心地がするやうになりました、

斯の如く時と處とによりて、種々に嗜好は異なりますが、要するに自ら容貌を飾りたいと云ふ念慮は、孰れの人種も、昔も今も、究竟する所同一である、而して未開の蠻人も、文明の淑女も修飾の上で尤も心を留むるは、皮膚の化粧であります、

躰格の醜美は、生れつきで何とも致しかたがありませぬが、皮膚は化粧によりて随分どうとも作り得るものです、殊に醫學の追々と進みて衛生の道の次第に開くるに随ひ、化粧の方法なども改良されて參ります、例へば以前は白粉など無暗に塗りましたものですが、此頃は鉛の中毒と云ふものは怖いものであると云ふことが段々解つて來て、薄化粧を尚ぶやうになりましたやうなもので、常に皮膚の攝生に御心がけなさいまして、永く天然の美を保ちて造化の寵

賜を空ふせざらんヿを、私は皆さんに希望致すのであります、

却說、今日は本會の濱尾令夫人の仰せを辭退し兼ねまして、又々つまらぬ御話をいたしまする次第ですが、先づ皮膚の解剖即ち組織の構成から申しました方が御分り易からうと存じますから、昨春一度御話し致したヿをもざつと操返へして申しませう、御聽き苦ひ所は、暫く御辛抱を願ひます、

此に掲げましたる此の兩面の圖は、昨年私が本會でお話しするに就て御分り易ひ樣にとて畫工に意を含めて畫かしたです其の後之を寫眞に取りて本會に贈りました處、先月の雜誌に載せられましたので皆さん御承知では有升が是れが其原圖なので、決して他から偸み取つた者では無いのです(百三十號參照)

此の通り、皮膚は顯微鏡で視ますれば、數層の層より成りたもので、其上層が表皮、次が眞皮で、下底が皮下層と申ます、眞皮の中には血管あり、神經あり、脂油を出す皮脂腺と、汗を作る汗腺があり、毛髮も根を茲に托して、表皮を貫き皮膚の表面に生長するものであります、此皮膚が骨の上や筋肉の上を被ふて居るのは、宛も岩石の上に土壤がある樣なもので、土壤に黑土、赤土、砂礫、粘土等の層を別つのは、宛も皮膚が數層より成るに等しく、毛髮の繁茂せるは森林に較ぶべく、脂腺の皮脂を分泌して毛髮をして常に光澤を保たしむるは、池水の自ら岸樹を潤ほすが如く、汗腺の皮膚の深層に存して汗を表面に輸出するは、地下の水、一條の經路を求めて地上に噴出するに彷彿して、疣や、黑痣や、たん瘤の高く皮膚の一處に隆起するは、猶ほ丘陵の起伏するやうなものです、時によると皮膚の一處に傷つきて鮮血の迸しるのは、宛も地面が破裂して噴火するのに較べるヿができる、斯く申さば人は是れ小天地と

古人の譬へも誠に偶然ならざるを覺ゆるです、又皮膚を養つて居る血液の中に毒でもあると、例へば肺結核とか又は猪毒とか云ふものに罹る時は、隨つて皮膚は弱くなり毛髪はぬけるのは、毒が流れて河下の田畑が荒れるやうなものでせう、其他にも双方比較をしましたら色々面白ひヿが幾らもあります、實に斯る精巧なる搆造を有しまする皮膚も其厚みは何程かと申すと、下の皮下層即ち脂肪層を除きますれば、僅か三厘乃至一分三厘位に過ぎないので、至つて薄ひものです、尤も身躰の部位によりて、多少の厚薄がありまして、瞼の上の皮などは薄ですが、手の掌や足蹠は隨分厚ひです、おさんどんや權助の手の皮はとり分けそうです、又顔の皮は格別人に依りて違ふものと見へまして、私共はよく友達に於前の面の皮は餘つぽど厚ひなど、折々申されます（笑聲起る）、

併し皆さん方の御顔は、下の肉色がすき透りて薔薇花の如く、誠に御奇麗ですが、此薄くてすき透るが皮膚の本來の性質で、皮膚の下にある血管が映りまして一種の光澤を生じます、貧血の人の色澤の惡ひのも全く此道理ゆへです、

此皮膚は、身躰の全面を被ひまする皮袋で、人間の臟器は總て此袋の中に詰め込んであります、試みに其袋を延ばしますれば、男では凡そ四尺五寸平方、婦人では三尺五寸平方位もあります、此皮袋は人間にとりては恰も甲羅みたやうなもので、其表面に少しも傷のなき限りは、如何なる病毒も細菌も外界より浸入するヿを得ない樣に丈夫に出來て居り、其丈夫さ加減は、巾三分の短ひ皮片を取りだして之れに貳貫目の重みを下げてもちぎれぬと申します、

どうして此薄ひ皮膚が、そんなに丈夫であるかと云ふヿは、是より順を追ふて細説いたす、皮膚の搆造

をお識りになれば、御分りになりませう、先つ最上層の　表　皮　より述べませう、此表皮は遠方からは圖がよく御見へにならぬかも知れませぬが、細胞と云ふ小さな單躰より組立てられまして、宛も石垣を積み上げたやうに累なつて居るのです、是が生物に於ける新陳代謝の理で、下から新しいのができて上の陳ひのは段々剝れて垢となる、頭をかくと「ふけ」のでるのは、即ち此表皮細胞で、逆上でもしますか、或は頭を長く不潔にして置きますと、此ふけが澤山にたまりて痒ゆくなり、餘り掻くと遂には頭瘡ができて「やに」がでるやうになります、夫ゆへ折々は洗ふがよろしい譯です、左すれば痒ゆみもとれ、「ふけ」もなくなります、又お湯をお使ひになると垢が出ますのも、此表皮細胞が剝げるのです、

此表皮細胞の中にも更に數層ありまして、其最も上の方を角層と申しまして、細胞が硬く角の様に變化して居る、爪も別なものではない、表皮が角層よりも一層硬くなりたものです、毛髮も矢張り此表皮が變化したのですが、是れは後に詳しく御話する積です、斯く同一の細胞が色々に硬く變化すれば不思議のやうですが、彼の柔かなる嫩葉よりして龍の鱗みたやうな厚き皮を被する松の大木か生へると同じとです、

動物によりては、此表皮が硬くなりて甲羅を成して居る、鮫の皮などが其一例で、魚の鱗も同じことです、人間にも魚鱗癬と云ふ病氣がありますが、是れは表皮が厚くなりて鱗の形をなす病で、俗に蛇躰の子が生れたと申すのは此病氣の小兒です、何にも親の因果が子に報ひた譯でもありませぬが、兎に角先天性の病で、よく兄弟數人に同病を見るとがありま

す、すはりだこと申してお行儀のよい御婦人の足にはよくできますが、是れも此角層が斷えず壓迫を受けるので、其反動に非常に增殖して高く持ち上るのです、魚の目も同じことです、時によると額などに角層が高く延びて、牛みたやうに角がはへることがあります、神農さんも此病氣でしたかも分りませぬ、前に皮膚は病毒の體內に入るを防ぐ甲羅だと申しましたが、更に詳しく申せば、皮膚の中でも此表皮こそ最も大切な役に立つもので、是の石垣が無瑾の間は、どんな怖い「バクテリヤ」が皮膚についても、決して體內に入ることができないです、併し皹裂がありますと、表皮が裂けて下の眞皮が露はれますから、直ちに毒が侵入し得るです、「ペスト」及破傷風が貧民に多く感染するのは、跣足になりたり手荒い仕事をして表皮に傷ができ易いからでありませう、

瘭疽と云ふて指頭に膿をもちて非常に痛む病がありますが、是れは多くはさゝくれの間より毒がはいるのですから、「さゝくれ」も用心せねばなりませぬ、是れは平常「ワゼリン」や又は「ヒヾ」藥をぬりますれば、豫防ができます、顏面は每日湯水を使ひますから身體の中で最も淸潔ですが、併し又むきだしの部位ですから、塵埃がかゝり易く、日にやけたり、寒風にあれ易ひ、あれると顏がかさかさになりて糠みたやうな白ひ糠粃疹(ふけ)が出る、是がむづ〱痒くなる、誠に氣味の惡ひものですが、硼酸を酒精に溶かして塗ると直ります、顏のあれるのは石鹼のせいにもよります、石鹼は高價から宜しいと思ふてはいけませぬ、香が好いと値も高ひですが、皮膚のためには香は少々惡くとも、加里石鹼や曹達石鹼又は「リスリン」石鹼の方が極めて宜しい、夫から同じ皮膚でも、小兒のは甚だ薄くて柔かで、

物にかぶれ易ひから、腫物や濕疹とてやにのでる痒ゆき病などに罹ることが度々ある、全躰皮膚は通常の水では荒れるものですが、殊に小兒の肌はさやうです、夫故平生糠の湯や泔水を沸した湯を用ゆるが適當です、而して此湯で毎日浴みしました後には、天花粉を撒りかけて置く、殊に股の間、腋の下、頸すぢ、臍の周圍などは多く汗がでゝ糜爛易ひから、尤も注意せにやなりませぬ、腰のまわりは汚しました度毎に清潔に拭ひて、後に椿の油を輕くつけて其上に粉を散布するのが宜しい、此注意を等閑にすると遂には赤肌になり粟粒疹ができ、水疱ができ、夫がすりむけて痛く痒く、夜もよく眠れないやうのことができます、其時分に醫師の所へ連れて往くと、石炭酸や昇汞水を着ける者があるが、之にかぶれてとう〳〵全身の濕疹を招くとは間ゝあるとです、又斯る場合に清潔にするがよいとて湯水で赤肌の處を洗ふ者がある、是亦大な間違で却てたゞれが增すのみです、此事は些細なやうですが平生母親は勿論醫師までも心得をきて必ず合點する場合があろうと思はれます。

又火傷でひぶくれの出來ることがある、或はとびひとて膿疱や水疱のたまるおできがある、是も表皮の細胞の石垣の間に水が溜るので、其水疱の中へ細菌が這入ると膿疱になる、之が大きくなりて破れると、液汁が空氣に觸れて乾きて痂皮になる、此痂皮をとると下は即ち赤肌で、時とすると表皮が全く破れて下の眞皮が露はれる、此眞皮の中には神經があるから、之が外氣に觸れて大變痛んでくるのです、夫れ故に火傷の手療治には何か油（最も好ひのは亞麻仁油）を塗るのです、左すれば神經の末端を油で掩ふから、痛みがとれ、糜爛も乾度直ります、

疥癬（しつ）是は餘り奇麗なものでありませぬが、

女中や子守などから小共に、小供から母親に移りますから、貰ひお方にも必ずできないとは限りませぬ、此病も、やはり表皮の中に發するので、御覽の通り（圖を示す）疥癬虫と申す小さな蟲が表皮細胞の石垣の間に蟹見たやうに潜り込んで隧道を作るのです、而して此は潜みて夜温まると雌雄で皮膚の上を散歩する（笑聲起す）其うち雌雄別れをして雄は皮膚の上で老死し、雌は隧道に入りて卵を産み食を求め、食竭きて終に隧道中に屍を埋むのです、此運動に出たり、血を吸ッたり、隧道を穿ちたりするので、痒みを起すのでありますが、此痒みは藥舗で下山博士の「ナフトール」流動石鹸を求めて塗ると直るです、（疥癬蟲の圖は本誌第百二十六號參照）

終りに表皮中の色素の話ですが、是は人種に依りて濃淡の違ひがある、隨ッて西洋人のやうに白皙人種より、亞非利加の黑奴に至るまでの差ひが出來る、此色素は表皮の基底層と申して最も下層の細胞中に含まれて居る、夫れが皮膚を透して外へ映るのであります、此色素は黑奴は濃くて多く、白皙人には淡くて少ない、若し全身に全然色素を含まぬ時は白子（しらこ）が生れる、皮膚の一局部の表皮に色素が欠けると、白癜風（しろなまづ）になる、又此色素が一所に集まると雀斑（そばかす）になり黄斑（しみ）になり紫痣（あざ）になる、雀斑が高く疣の如くもち上ると黑痣（ほくろ）になる、黑痣の一ッ二ッできて居るのは、場所によりては愛嬌になるとて大切がられる冥加至極な黑痣もありますが、泥ぼくろとか申して、ご常人に大そう嫌はれて、電氣や腐融藥で焼き殺される不運なものもあります、

眞皮

の話に移りませう、是は表皮の下で、是れが皮膚の重なる部分であります、此中には血管あり、神經あ

り、脂腺も之に居り、汗腺も之に存し、毛髮も亦之に根帶するのである、而して其構造は結締織と申して纖維が網の目を織り成して、上ほど細かく、下ほどあらく、遂にはあらき目の中に脂肪がはいりて、目をふさいで、次の皮下層又脂肪層を成すのである、故に皮下の脂肪層は實に眞皮の一部であると云ふてもよろしい、

此網の目に沿ひて、彈力纖維と云ふ極めて彈力の强ひ纖維が混じて居る、丁度、護謨紐の中に護謨が織り込んであると同してある、皮膚ののびちゞみできるのは、眞皮の構造が網の目にできて居るのと一ッは此彈力纖維がある故で、殊に其ちゞむのは全く此彈力纖維のせいである、若し是れがなくば、うつかり人をつねるともできませぬ、若し顏でもつねつたら、其儘皮膚がのびて、とんだひよつとこの面ができませう（笑聲起る）、所が幸に伸びたるものは、必ず縮みて、もとに返へるから、毫も外形が變らない、尤も此彈力が弱く、皮が伸びたら伸びたきりちゞまぬ病もある、それは護謨男と云ふて、身体の皮を引張ると、幾らでも伸びる、お腹の皮を延ばすと風呂敷見たやうに頭に引ッかぶることが出來る（笑聲起る）、じよう談ではありませぬ、先年そう云ふ護謨男が歐羅巴中を見世物に巡ッたとがあるのです、是れは詰り彈力纖維の性質が普通より變りて居て、そふ云ふ異狀を呈したものであります、

血管や神經の集まつて居るのは、眞皮の最上層で、乳頭と云ふて山の形に表皮の中へ突出たる部分である、御若ひ方の頰の紅ひなるは、此乳頭にある血管がすき透つて見ゆるのである、驚怖すると蒼白くなるのは、此中の血が少なくなるのである、腹立ちたり、耻かしくつて紅くなるのは、血が茲に充盈るのである、凡て此血管中の血潮の滿干で、喜怒哀樂の

情を測ることができる、夫れはどうしてかと云ふ、即ち

○○神經の作用である、神經が玆にありて、是が血管壁に連がつて居り、腦髓即ち中央電信局から電信がかゝると、其情報に隨て血管壁がひらきたり收縮したりするのである、又皮膚をつねると此神經が逆に本局の腦髓に傳へて痛みを感ずるのである、乳頭中には又觸躰と云ふものがある、即ち指を以て物に觸れは、物の大小廣狹が分るのは、此觸躰の作帶であります、

次に眞皮の中には脂腺が在る、是は肌膚を見ると氣孔が見へる、此氣孔は即ち脂腺や汗腺の出口である此脂腺は必ず毛髮と伴ふものでありますが、毛髮のとは後で御話しますゝとして、此脂腺は即ち皮膚に脂をひきて、光澤を與ふるものである、其分泌するものは普通、目立ぬけれども、若し分泌が少くなる時は、皮膚の光澤が減じて、表皮が糠粃のやうに剝離するために、肌が砂埃でも付たやうに汚穢に見えます、是れは恐ひ石鹼を使ふたり、硬き水を用ゆる時は、脂を速く溶解するによりて生ずることがあり、又はたむしの樣な皮膚病の時にも見ることがあります、

又脂の分泌が多く過ぎると、てか〳〵と皮膚が光りて、油を布きたる如く、白ひ手拭でふくと、まつ黑になる、是れは芝居見物などで風の通ひ惡しき處に大ぜいぎつしりつまつて居る時、又は狹ひ部屋で歌がるたに餘念なき折など、御經驗の御方もあろうと存じます、

さて又此皮脂が病氣にどう云ふ關係があるかと云ふと、脂腺の分泌が多く過ぎるか、又は腺口に埃が着くと、其出口が塞がる、而してそれがために焮衝を起して、面皰(にきび)が出來る、此面皰と云ふ者は



御若い方に多い、試みに面皰を壓し出して見ると虫が居ることがある、是れは毛嚢虫と云うて偶然潜り込むもので、面皰の原因ではありませぬ、

それから皮脂が澤山になりますと、頭へふけが溜つて、それが爲めに頭痛が起ることがあります、皆樣の中には、或は是で御困りの方もあろふと思ひます、是れは餘り長ひ間、髪を御洗ひにならなかつたりする時、又は便秘のくせのある時、或は腰の病でおのぼせの方に多い、此ふけは加里石鹸を御使ひになると豫防が出來る、烈しく露れると隨分御難義なものです、

それから汗腺、是は脂腺とは違つて、眞皮の深い處に在る、時とすると其下の脂肪層に根ざして居る、即ち汗を作る處である、皮膚の潤澤なのは、脂腺と此汗腺の分泌によるもので、殊に掌と足の裏には只汗腺のみしかない、汗が出ないと皮膚があれるから、虔利私林を水に溶かして御塗りなさるが宜しい、併し汗の分泌が多過ぎるのも宜しくない、殊に手汗の多いのは、着物がよごれる、物に觸ればしみがつく、誠にいやなものです、握手の行はるゝ國では、之がため交際上甚だ嫌はれる者がある、腋の下に出ると衣服が傷み、又腋臭(わきが)を起すことがある、是は甚だ嫌はれるものですが、豫防には水楊酸精のやうなものを折々ぬるがよろしい、頑固の症でも直ります、時とすると色汗とて赤い汗などが出ることがあります、次に

脂肪層

皮膚に脂肪あるは、蒲團の皮に綿や毛羽をつめたやうなものです、第一身体に格好をつけ、殊に顏の相好をよくするもので、ゆつとりと圓みがつきて、光澤がでるには、是非とも此脂肪がなくてはなりませ

ぬ、夫故御婦人方には男子よりも脂肪が多ひのです、尤も餘り脂肪が殖へ過ぎて布袋さんみたやうなのは、皆さんどう云ふ譯か餘り御すきでない樣です(笑聲起る)、

又躰温を保つにも、脂肪が大切なとは皆さん御承知で、脂肪の多き方は綿衣貳枚位うすぎなされても、寒くはないでせうと思われます、

脂肪は又外傷を防ぐ爲めにもなります、脂肪が多きときは、物にあたつても骨や肉に響くとが少ひので、痛みを覺ゆるとが輕ひです、是れから

毛髮

の話をいたして、仕まいます積りです、全躰この毛髮は根は眞皮のうちにあれども、素と表皮が眞皮のなかに、もぐつたもので、實は表皮の一部である、皮膚には手掌と足蹠、其他二三の場所を除く外は、悉く毛を生じて居る、人間は動物の進化したものであるから、動物の毛のある處には人間にもある、たゞ其毛は動物では悉く硬毛より成れども、人間では硬毛のなき處は、毳毛(うぶけ)を以て被はれて居るのであります、毛髮の最も密生せる處は、顱頂部で、茲には三分三厘の平方中に三百本の毛がある、次は後頭と額とて、茲には二百本、男の頤には同じ面積に僅四十本である、尤も人種によりても疎密の差異がありて、熱帶地方の人民の毛髮の太く疎く硬く、寒帶地方の人民は細き髮が密生して居ります、遠き昔は知らず、當今は寒帶の人民が熱帶の人民より開けて居る、して見ると、毛の多ひ程、人間が利巧かも知れませぬ、猿は人間より三本毛がたらぬと申すのも此道理なのでせう、さて病氣になると毛髮が普通、毳毛のある部にはへるとがある、此は犬男(圖を示す)とて露西亞人で、顏中むく犬の樣に毛がはへて居ります、又御婦人の鬚の生へた方

がある、西洋の婦人は顏へかみそりを當てませぬ故、隨分長い鬚がある、又月やくのすみた後、鬚のはへるとは折々ある、

毛髪の色にも人種によりて非常に相違がある、我々日本人の毛は漆の如く黑くて、孰れの國の津々浦々を參りても同樣であるが、他の人種には黃金色、赤色、褐色などの違ひがある、人類學者の說には、人種を別つには毛の色でするが一番確だと云ふことです、西洋の樣に人民の皮々、遷移して雜居せる國柄では、人を識るに毛の色に尤も着目する習慣がありまして、人を指すにあの黑が、あの赤がと、まるで犬の子見たやうです、

又毛髪には我々の樣にまつすぐなもの計りでなく、ちゞれつけの人種もある、熱帶地方の人種には殊に多ひ、御釋迦樣のあたまを見ても分る、直ぐなる毛は横斷面が圓くて、捲縮毛は扁平、三角或は四角である、

長さにも種々ありまして、長さは四尺以上に達し、中等の長さは一尺二三寸である、太さは黃金色の毛が一番細く、〇、〇五密迷、黑のは〇、〇七密迷、尤も鬚などは太く短くて太さ凡そ〇、一——〇、二密迷である、

毛髪には幹と根とありまして、根は皮膚の中にありて葱の根みたやうで、幹は外に斜めに出て居る、其方向が一定して居るので、處によりて毛渦（ぎりぎり）ができる、是は顚頂のが尤もよく分りますが、其位置が正中をはづれて居ると根性が惡ひと申ます、毛根には毛髪堅立筋と申す細ひ筋纎維が斜めにくッつひて居る、前申す通り毛と云ふものは眞直ぐには生えないもので、必す斜にのびて居る、所で寒かッたり或は物に怖じたりする時は、身の毛がよ立つ、是はどう云ふ譯であるか、即ち此側に着いて居

る筋纎維が収縮して短くなるから、斜にねて居る毛が起き上らざるを得ないのである、誠に巧妙な仕掛けに出來て居る、壯士髮衝冠と云ふやふな時分には、此筋纎維が餘程収縮にはならないだろうと思ひます、

一寸、毛髮を横に切つた處を圖でお目にかけると、斯ふである、即ち毛膜と毛皮と毛髓の三部より成りて、丁度筍の横ぎりみた様である、此筍の皮に當る所は毛膜で、毛皮は即ち筍の實で、毛髓と云ふのは筍の心の空洞の所に當ります、先刻毛の色には種々あると申しましたが、是は何處から來るかと云ふと、此毛皮の中に含んで居る色素の作用である、此色素が多いと我々のやうな黑い毛になり、薄いと西洋人のやうに赤くなる、又空氣も此皮質の中に含んで居つた、此が毛髮に光澤を與へる、そこで

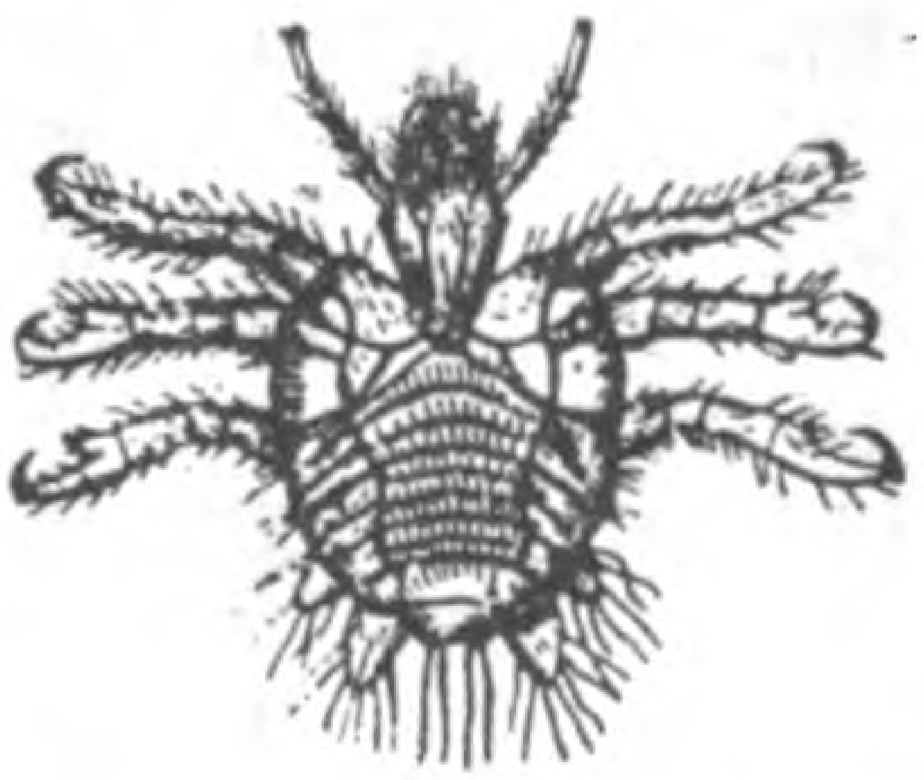
白髮になるのは何う云ふ作用かと云ふと、詰り毛皮の中にある色素が段々薄くなりて、遂には全く無くなつてしまふのである、そればかりぢやない、毛皮の中や殊に毛髓の中に空氣がふへて來る、すると宛も水を盛りたる硝を外から見るやうに、毛髮に光澤がでる、始めは胡麻鹽の頭が遂には雪を欺くやうに真白になる、而して此白髮は、何時でも根から始まつて、段々と上の方に白くなつて行きますが、是は色素は先づ下から無くなるからです、又兩鬢の霜と云つて、誰れでも鬢の所が一番早く白くなるものです、此白髮は年老れば早晩誰もなりますが、時とすると、三十頃から追々白くなる者もあり、六七十になつても髮の黑い人もある、是は其人の性質によりますが、又心配すると早く白髮になると云ふこともあります、御承知の通り、源賴義は前九年の戰さの眞最中には白髮であつたが、勝ち軍になりたら、追々胡麻鹽頭に復へりたと云ふとである、又佛蘭西

の路易十六世の皇后で、マリーアントアネツトと云ふは、墺太利のマリヤ、テレジヤと申す名高き女帝の末女で、當時絶世の美人であつた、是が彼の大革命のときに、一天萬乘の君でありながら、無殘にも斷頭場裏の露と消へ失せられたのである、其皇后が逆徒の爲に牢屋へ押込められました時、一夜の間に白髪になられたと云ふことを、今に申傳へて居ります、

却説、毛髪と云ふものは、殊に御婦人には最も大切な裝飾でありますが、是は何時までも保つものではない、人に百年の壽命と同じく、其臟器にも亦一定の壽命がありて、表皮の常に新陳代謝する如く、毛髪も亦始終ぬけ代るのである、此毛の壽命を計算した閑人の説に據れば、頭髪は凡そ二三年乃至四五年位の壽命を保つものである、但し其中で頭部の邊緣の髪は、僅か四五ヶ月で代り、又睫毛は三四ヶ月でぬける、動物には御承知の通り、春秋に脱毛するものがある、人間も其通り、一方ではぬけて往くが、又一方では新しい毛が生えて來ます、皆さんは奇麗な毛髪を有つておいでなさるけれども、若し其毛が拔けた儘で、跡へ生へないか、又は生へ方が薄いとか云ふやうですと、禿頭(はげ)になります、老人では之をやくわん頭と申ます、又鬼舐頭と申して支那では鬼が頭をなめると書きますが、我國では俗にケツ〳〵に舐められたのだと云ふ病がある(笑聲起る)、是は知らぬまに、一夜又は數日の間に、圓形にことんと禿るのである、東京などには殊に澤山あります、又大病の後で毛が薄くなり、或は全く拔けることもある、又猶毒のやうな惡疾に罹ると、それがために大變毛の薄くなることもある、其外總て貧血の病で、毛の養ひが自然に少いと、十分に發育できぬから薄くなる、殊に御婦人ではふけが溜まる

と、それがために毛の養ひが悪くなつて薄くなることもある、併し此ふけで薄くなつたのは、復た漸次に生え易ひ、又我國の御婦人方は、髪をお結ひになる時、毛をお緊めになりまして、おまけにいかにも重そうな髷を頂かれますから、ぼんのくぼ邊の毛が絶えず後の方へ引ばれまして、漸次に細くなつてしまふ、大抵十人の内、六七人は多少此部が禿げて居らつしやいます様です、而して其部の皮を見るとぶく／＼に膨れて居る、全躰此髷と申ものは、西洋の婦人が笠みたやうな大きな花帽子で頭のなりをごまかすのとは違ひ、中々凝つたもので、格好のよいものですが、其代り誠に不便で、閑つぶしてあるのみならす、衛生上の害もありますから、何とか時勢につれた改良を、施さねばなりますまいと思ひます、御婦人には頭痛もちの方が随分ありますが、是は一ツは髷のせいでせう、ふけが溜まツて痛くても度々洗ひ髪もできず、又絶へず毛の根が引きつれましてけ、自然之がために神經質になるものです、

毛には又黴菌がたかり易ひ、此は（圖を示す）白癬（ファーブス）と云ふ病で、斯くの如き糸のやうな細菌が、毛髪の中に巣をくツて、黄色な頭瘡を起し、甚た痒ゆいもので、毛が脱ける、是は小兒に多く、學校で帽子などから傳染する、元は雞や鼠などからうつるのです、又白くも（「トリコヒチー」）と云ふがある、是も似よりの糸狀菌が飼犬や猫から移りて、人間の毛につく病なので、頭癬（たむし）と云ふのは此細菌が毛につかずに、皮膚に着いたのであります、又此寫眞の黴菌は私が或る婦人に發見しました毛の病で、髪に白き固きものがついて居る、鳥渡見るとふけのやうで、氣に留めずに居りますが、



殖へると頭髪が悉く虫の卵でもついた樣に汚く見へ、且つ毛が細くなりて裂ける、其白ひつぶを寒天に培養しますと、此通りの糸狀菌が發生するのです、是は「ピエドラ」と申す病で、素と南亞米利加で發見して、其後歐羅巴でも稀に見たヿがありますが、其性質がよく分つて居らないので、只今私が研究中なのを御目にかけたのです、

黴菌の外に蟲も髮につき易ひ、汚い樣ですが虱がつくと、頭瘡の原因になり、又顏面の濕疹を誘ひ起す此は素より貧乏人に多ひですが、良き家の小供でも學校などで感染らないとも限りませぬ、其時の御注意までに申し上ますが、此蟲を殺すには、石炭油が一番便利です、併し頭に火のつかない樣に御用心なさひ(笑聲起る)、

餘り長くなりましたから、毛髮のヿは此位で止めませう、つまり毛髮の發生も亦極めて大切なヿで、月に二三度は必ずお洗ひなさるが宜しい、うどん粉に卵に布苔、是は皆さん普通の洗滌料ですが、それでよろしい、但し其あとを、始めは温湯で、後には微温湯で、十分洗ひおとさないと、前申した糸狀菌などがつき易ひです、之を豫防するには、折々中性流動石鹼でお洗ひになるが一番よろしい、

畢竟、皮膚は人体中の極めて大切な機關の一で、身躰の健康は實に皮膚の健康に基くものである、皆さん方が海水浴や温泉にいらッしやるのは、即ち此皮膚を固め、隨ッて身躰を强壯になさるので、誠に結構なヿであります、

皮膚を塗り又は入墨をするのが美人ではない、鼻環を下げ耳環を着くるのが美人ではない、腰を細く緊めたり足くびを小く縮むるのも亦美人の本領では無い、要するに自然の形躰を健全に保つ者が即ち眞正の美人であらうと思ふ、皆さん、何卒此主意を以て、

能く皮膚の養生をなされて、天の成せる麗質を完ふせられむ事を希望致します、

（終）

歐米體育の狀況

此篇は近衛公爵の日本體育會に於て演說せられたるものにして歐米最近體育の模樣を知るの便多きを以て爰に轉載して躰育獎勵の一端に供す

公爵　近衛篤麿君

中略昨年巡廻致した國々の箇所は隨分多いのでありまして、一々一ト所に就て御話をするは甚だ煩しい事でござりますから細い事は畧しまして、大躰三四ヶ國の學校などでやつて居る體育の狀況を實見を致した儘を御話を致すので、最初亞米利加に參りまして、其亞米利加は通り拔けの旅行で充分見る事は出來なかつたが學校は多少見ました、次には英國に行つて、それから大陸に渡つて、大陸は僅かの日數でありましたが殘らず見て參りました、其見て參りました所で體育の最も發達して居るは申までもなく英國でござりまして、其英國に於ての體育のやり方はこれは皆さん御承知の通りで珍らしい事もないが短艇とかクリツケツトとか其他ラツケツトと云ふ遊びがある、其種類を數へ擧れば餘程澤山あるやうである、併ながら其運動をして居る所を實見したが、其方法、詳しい規則などは充分研究する暇がなかつたのでござります、重もに運動する場合を見ましたが大學のケムブリツヂ、オツクスフオードは勿論其他ハイスクールと云ふ、これは高等學校位な學校で、イートンハロー、ラグビーチヤーターハウス等四十程もあるやうである、其中三ツ四ツ見ました、英吉利の敎育の仕方は諸君も御承知の通り無闇に智育の方即ち若い者の頭に何でも彼でも注ぎ込む流儀でない、寧ろ人物を養成すると云ふやり方のやうに見え

ます、それで英吉利人の教育するを見ますと學生などども自ら大陸などの學生とは違つて餘程上品であつてコセ〳〵とした所がない、何となく奥床しいと云ふ有様が見ゆるやうである、其遊戯など致しますにも各學校に方法は多少違ふてあらうと思ふが、概してやるはテニスとか、クリケツトとかを行ふにも學校には時々演習は致しますが、大會を催して屢々奬勵する、或は他の學校と組合つて試合ひをする事がある、チヤーターハウスへ參つたが校長が一番に出して見せたは金のメダル、經り三尺もあるメダル其傍らに小い字で學校の名と年號を彫つてある、これは運動で各學校が組合つて競爭の時最も勝利を得た學校が持つて歸り、一年持つて居て翌年試合の時勝つた學校にそれを渡す、受取つた時學校の名と年號を彫り付ける習慣で、恰も「ボートレース」の「チヤンピオンフラグ」の如きものである、凡てさう云ふ風に唯一の學校だけの方針にあらず、一般の他の學校と申合せて體育には力を盡して居る、これは英國が近年にさう云ふ事の進んだにあらず古來からの習慣のやうであります、其他婦人などに至つては「テニス」などが最も盛んに行はれて居る、一ツ驚いた例として御話をして宜いと思ふのは或伯爵で倫敦の郊外に居て大なる庭を有つて時々盛んなる園遊會を開いたりする金持の貴族である、其家へ或人の紹介で行つた、其時は其家のお孃さんの誕生日で、友達が澤山來て居る、遊んで行かぬかと云ふ事で加はつて見て居りました、日本ならば娘の誕生などには一間の内で琴三味線の合せ物とか、歌骨牌と云ふ事であらうと思ふがこれに反してお孃さん方の最も樂みとする事は「テニス」である、大なる「テニス」の場所があつて頻りにやられたが、これを見て體育は男となく女となく上下の區別なく、充分力を盡して

居る事が判らうと思ふ、それから米國の方も充分體育に力を入れて居る、又亞米利加人の盛んにやりますのはベースボールとか、フートボールとかで、ベースボールをやるには實に廣大なる場所が出來て居りまして、二三の學校を見ましたが其學校では遊び場が最も大なる部分を占めて居る、殊に雨中の體操場が出來て居る、雨が降つても差支なく大なる遊びか出來る組立てゝ、宏壯な建物がある、これは圖書館でもあるかと思ふて這入ると運動場である、四層樓位と思ふ、最下樓は地下で、暖爐を置いて冬の寒中でも同じで、二層には大なる水溜があつて水泳をする、寒中でも夏でも相當の温度を保つやうになつて居る、さうして泳ぎをするやうになつて居る、泳ぎの道具、飛び込む道具もあり、綱渡りのやうにして行つて飛込む工夫も出來て居る、其周圍は衣服を脫ぐ所がありまして、小い押入れのやうなものが澤山ある、學生はそれに衣服を脫ぎて泳ぎの襯身袴と代へると云ふ有樣、構造は簡單であるが普請は非常に立派なるもの、空氣の流通とか、温度の工合には餘程力を籠めてやつてある、モ一ツ層上に行けば其處は板間で、其處には機械體操の道具が澤山備へ付けてある、下には藁蒲團のやうなものがあつて飛んだり刎ねたりして居る、種々な機械體操と種類に依りて間が分れて居る、モ一ツ上に行つた時は何もやつて居なかつたが或は柔軟體操でもやるのであらうと思ふた、これは亞米利加のやる事で他の國で眞似の出來ぬ事であるが、非常に力を用ゐて居る事は判る、其他野外でやるベースボール、フートボールは到る處で、何處にはドゥ云ふ事をやると云ふ事は云ふ暇がない位である、以前は英吉利にはベースボールをやる者はなかつたが隨分やる者が出來たと見えて態々ベースボールを英吉利から試合に來たと云

ふ事である、米國から英吉利に行き英吉利から米國に行つて競爭すると云ふ有樣、それから大陸に渡つて佛蘭西には僅かしか居りませぬから御話は仕兼るがそれから獨逸、これは前に行つて事情も多少知つて居る積りであるが昨年も一ヶ月ばかり居て前とは餘程違つて居ると認めた、以前私の居りましたのは十二三年前でござりますが其頃に於ては勿論獨逸人は隨分體育には力を入れて居るに相違ござりませぬが英吉利の學生が從來やつて居るやうな遊びは殆ど無いと言つても宜いと思ふて獨逸人は最も好んでやるはケーゲルと云ふ遊び、麥酒壜の如き棒を九ッ立てゝ、長い廊下があつて十四五間手前から堅い木で造つた球を投げて倒す、其倒し方によりて勝敗を決する法である、それは十四五年前には盛んに行はれて居て、それ一ッて其他玉突等はあつたが、他に珍らしい遊びは見かけぬてあつたが、今行つて見ればケーチルは下火になつて盛に行はるゝはテニスで、以前ギムナジヤムの設けのある所には一ヶ所もなかつたが今は何處にもある、これは餘程以前と違つた現象と思ふて居りました、短艇も以前からあつて、ライン河の邊りエムスとか云ふ温泉場の邊で行ふレガッタは中々盛んであつたがとても英吉利のケンブリヂ、オックスフォードのやうなものでないが、然るに段々發達して川沿えの所では非常に發達したと云ふ事を彼方に行つて居る日本人から聞きました、以前より餘程體育と云ふ事に力を用ゐて居るは直ぐ判ります、其餘波とても中ますか、獨逸近國の澳斯太利とか或は瑞西まで英吉利風の遊びが流行つて其等の國は通り拔け位であるが滊車の窓からでも見える、それから露西亞もテニスは盛んにやつて居る、テニスは他の遊びより發達したはドウ云ふものか判らぬが、テニスは昔は英吉利人の遊びであつたが、今日

は歐羅巴全躰の遊びとなりました、大躰見て歩きました國々で躰育の有様はザッと言へばそれだけであります、併ながら雨中の躰操などゝ云ふ事に就ては亞米利加程歐羅巴に於ては充分の設備はないやうであります、設備がないと申ても無いではない、小い泳ぎ場は冬でも夏でも出來るやうになつて居る、又乘馬の如きも屋根の下で乘り廻す事の出來るやうになつて居る所がある、其設備は地價の高い歐羅巴であるから半分は地下、半分は地上である、地下は廐になつて居る、餘程考へてやつてある、日本などではさう云ふ窮屈な場所でやる必要はないか知らぬが兎に角歐羅巴には乘馬でも水泳に致しても近頃は以前とは違つて設備が完成したやうである、それから又流行るは自轉車である、日本でも中々流行して居るが中々あれ位のものでない、これは學校の生徒は勿論小役人のやうなものでも或は丁稚小僧でも自轉車に乘つて驅け廻つて居る、これは非常に盛んなもので、これは躰育の方に必要なものであるか、衛生上害のあるとかないとか云ふ事は衛生家の議論もあらうし、歐羅巴でも議論があるやうでありますが、果して有害か無害かと云ふ確な議論は聞かぬやうであります、兎に角身躰を動かす事の必要を感じて來たか盛んな事になつて居ります、

それで私も歸りましてから日本の躰育の事に就て是迄のやり方が不完全である、各學校で兵式操練もやつて居るが、これは生徒が義務としてやるので、やらねば叱らるゝから據ろなくやるものが多いやうである、中には樂んでやるものもあらうが半は強制でやつて居る、躰育などは人から強ひられて是非やらねばならぬと云ふやうなものでは盛んになる望みはないと思ふ、自ら望んでやるやうな事柄を設けて奬勵するが必要であらうと思ふ、それはドウ云ふ事に

すると云へば英吉利風のテニスなど丶云ふ事が大陸に廣がつたと同じやうに勝手に學生がやると云ふやうな事を盛んにしたら宜からうと思ふ、ベースボールは大變流行つて、各學校で試合を致すのであります、私の關係して居る學習院なども他の學校と試合をした事もあります併しこれも一利一害で學習院で一ツ困つて居る事がある、これは躰育に關係はないか前に御考へ置きを願ひたい、それは他の學校との關係、動ともするとそれから惡い事に導かる丶事がある、先づ向ふの學校より此方へ來る時は御客が來たと云ふので煎餅餅菓子でも出さねばならぬ、又向ふに招かる丶時は又餅菓子が鮨になり、茶を飲んだが麥酒になり、其次に麥酒が正宗と云ふやうになり、其結果は面白くない事にならうかと思ふて學生が勝手に他の學校と試合をする事は見合せ必ず願出してすると云ふ事に學習院はして居ります、學生を樂ますは他の學校と一所にやらせねばならぬ、さうすると又さう云ふ弊が起る、それを防ぎて他の學校と共にやるやうにしたいと思ふ、其方法はドゥすれば宜いと云ふ事を躰育會に望むは無理かも知らぬが其御研究を願ひたいと思ふ、近頃學生の風儀が惡くなつて近頃新聞にも現はれますが如何はしい學生の團躰があつて、それに親分があつて神田には誰々、本郷は誰々と云ふやうに昔の博徒が子分を引連れて歩くと同樣である、近頃決鬪があつたはさう云ふ種類の生徒かドゥか判らぬが何にしても惡い風がある、唯活潑な事をと言つても活潑と亂暴とは違ふ、一方は躰育を勸むると同樣に其取締が必要である、警察でも取締るが必要であらうが一方は躰育を奬勵して盛んに躰育の必要を唱へる躰育會に於ても其等の事も御承知で奬勵を希望致す事でござります、別に考へて置いた事でもござりませず歐羅巴を廻つた所の話

と云ふ事でござりましたから申ましたが甚だ前後不揃の事を申ました、（大喝采）



寄書

肺病豫防養生法（第十）

醫學士　竹中成憲君

食物の事

消化し易き物は何にても可し魚肉鳥肉皆宜しく鷄卵最良とす但生卵よりは半煮の方消化し易し全く煮れば白身は消化し難く黄身亦之に準ず

鷄卵の新鮮なると腐敗せしとを鑑別せんとするには左法の一を行ふべし

（一法）鷄卵を鹽水（一合の水に通例の鹽二匁を投じたる中）に入るゝべし新鮮なるものは容器の底下に沈むべし

（一法）鷄卵を縦に（理學上で言へば其横軸に）疊の上に回轉（ころがす）すとき其横に倒れざるものは腐敗なし

（一法）鷄卵は其一端大にして他の一端は小なり此小端は冷にして大端は温あり之を彼れの生理的と爲す若し兩端共に温なれは腐敗しあるの證なり此温度は舌を以て舐（なめて）めて之を覺るべし

食物は大略左の表を見て參考となすべし

◉食物攝生表（大略を示す）

◉よろしきもの

刺身、牛肉、麪包、牛乳、大根（やわらかに煮たるもの）、唐辛（極少々）、あつぶる、玉子酒、牡蠣（大に可し）、蒲鉾（少々）、鳥肉、ソップ、温飩（やわらかきもの）、人參（やわらかきもの）、葛湯、白酒（少

々)、鷄卵(半煮最良焼玉子は惡し)、辛(少々)、八目鰻(少々)、豆腐、蕪、味噌汁、蜜柑(汁ばかり)、葡萄(汁ばかり)、大根おろし(少々)、カステーラ、梅干、麸、味噌、梨子、葡萄酒(一回以上の品)、馬鈴薯(少々)、鯉、アロイロナート、比目魚、南瓜、さゝぎ(よく煮たる者)、長芋(少々)、小いも(少々)、蕨、鱸、桃、蓮根、百合、山の芋(とろゝ)、まぐろ(少々)、鰈、茄子(煮て)、なまず、白玉(少々)、そら豆(但し皮をのぞく)、素麺(やわらかくにて少々)、鰌、三ツ葉、さといも(少々)、魚の子は總て良し、鰊、鰯(共に胃の弱きものにはあしゝ)、まがれい(ひらめ)、てつくい(かれい)、そい、あぶらこ、かながしら、わきわじ(鮭)、ちんちん(魚、新潟こうぐり)等

北海道追分の「はやし」左の如し

そひ、あぶらこ、かれ、まがれひ

右は善惡を以て順序を立てたるにはあらざるも奇なり

拙者狂歌に

「よきものは魚は鯛に肉は牛、野菜大根、鳥は鷄」

下等の俳優を「大根」といふ其理由は「何程やつても當らぬ」といふ故なりと聞く

北海道に於て冬期馬の髮、凍結して氷柱下がるとき生大根一本を喰しむるときは發汗甚しく氷柱脱落すといふ

感冒せる人入浴中大根を喰ふときは發汗甚しく感冒爲めに治すといふ

又上方の俳優は此の如くして白粉の鉛毒を去るといふ

豆腐は植物性滋養物として得難き良品なり其功、實に鷄卵に亞ぐべし或洋醫の之を自稱せざるは豆腐なき國の習慣のみを見るに依る

菓子の中にて最も害少なく最も滋養あるものは「カステイラ」なり「カステイラ」は元「イスパニヤ」國の菓子にして其國の語なり

飴の類皆良し「ペプシチ」と稱する消化藥を入れたるものあり學理上大に良しきものなり

外國にては牡蠣を最滋養物とし恰も我國人の生鷄卵を見るに同じ

牛酪、乾酪は滋養になりて良し

●わしきもの

蟹(北海道其「みそ」を喰はず)、海老、西瓜、蒟蒻、胡瓜、昆布、揚物、漬物(なまづけ殊にわるし)、烏賊、鰮、鹽鮭、心太、葱、牛蒡、油揚、天麩羅、燒酎、京菜、煎餅(下等のもの)、鯨、赤飯、とうきびうど、蕎麥、豆、小豆、(皮をとればよろし)、鹿角菜、干瓢、ヌタ、切干、章魚、未熟果物、わだら(じゆんさいの如きもの)、團子、味淋、甘酒、松茸、若海布、芹、干鱈、澤庵(胃稍強き者は差支なし)、瓜、牡丹餅、菓子、筍、椎茸、干瓢、數の子、ふき、

右は重症患者の爲めに作れる表なれば普通の人は勿論輕症の人は此の如く嚴なる事を要せず胃弱の人は此表を守るべし

人は肉類のみを食す可らず單に肉類のみを常食とし新鮮なる野菜を食せざる時は壞血病(スコルブート)を發す故に新鮮なる野菜は一日も缺く可らず就中鑵詰の肉を食ふ海上旅行者及び戰地に在る者等最も注意すべし同質の肉にて鑵詰は新鮮なるものよりも惡し」壞血病とは齒齦より出血し又皮膚に血斑を生ずる危險なる病なり

大和十津川住民北海道空知郡瀧川村へ移住せる際野菜に乏しく此壞血病を發せり實に慘状を極めたりと云ふ(大竹一等軍醫談)故に人、新開地に入る時は常に野菜物の注意を要す北海道蕃土人(アイヌ)は野草

(例之アイノねぶか)を喰ふが故に此害を免る遠征の漁船、野菜の貯蓄に重きを置く其理由玆に存す(出帆の船に對し警察的に野菜積入の調査を實行する所あり)

左に日常、飲食に關し忘るべからざる注意、金言を述べむ

食少きが爲めに病を得し實例は少く、食多き(過食)か爲めに病を得し實例は多し故に食は寧ろ少なるを良とす大食するとも必ず肥ゆるものにあらず大食しつゝ痩せて骨と皮のみなるもの饒多あり

腸胃の病は喰過の爲め起るを最も多しとす

旣に發病したるものは十分なる滋養品を要するも目下健康なるものは敢て所謂滋養物を要さざる事は本書運動の部に述べたり要するに運動十分なれは食粗にして足る

高齢に達する人には少食のもの多し

元來一日に三度の食事を爲す事は近世の事にして古の人は一日に二度食事せるのみ

佛家にては今日たりとも此規則を守り居る僧あり

或人の箴言に

「飲む事は犬の如くし、喰ふ事は猫の如くすべし」

と

拙者之に追加して曰く

「牛の如く飲み、馬の如く喰ふ勿れ」と

京阪地方に於ては商家の毎朝粥を用ゆるものあり北越は農商共に毎朝「ヲジヤ」(ゾウスイ)を用ゆ右の如く慣習にあらざるも胃を愛するの故を以て粥を用ゆるものあり然れ共忘るべからず粥を嚙まずに嚥下するよりも寧ろ普通の飯を善く嚙むの遙に勝れるを換言すれば食物の軟きものよりも歯で細くし唾液(つばき)の混和したるもの胃に良しきなり唾液のみに

て既に米類を半は消化し得るものとす
唾液中に有効成分の主なるものは「プチアリーン」と稱する者にして澱粉を砂糖に變ずるの力あり胃腸専門家ドクトル長與稱吉君曰く「飯或は粥に生鷄卵を攪き混せて喰ふは悪し何となれば米粒に蛋白質の衣を着せたると同一にして「プチアリーン」の進入を防ぎ胃は穀類を消化する作用なき爲め此米粒は消化するとなく胃中にあり」と
抑も食物を噛むは之を味ふが爲めにあらず又單に細末と爲すを以て目的とするにあらず主眼とする所は唾液(プチアリーン其成分也)の作用を食物に及ぼすに在り故に小食にして長飯(ながめし)なるを良とす
　小見の歯は之を乳歯と稱し生後七ヶ月にして下顎前端に發生するを始とし第三歳の始めに第二臼歯(奥歯)の上顎に發生するを以て終とす總數二十個あり

第七歳に到れは脱落したる乳歯の跡へ一生殘るべき新歯發生し第十四歳に到りて完備す其數二十八個ありて之を永久歯と稱す第二十歳を越へ第三十歳に達せざる前更に最後部左右上下各一個の新歯を生ず
之を智歯といふ茲に於て大人の歯は完備して總計三十二個となるなり
歯を保存せむには歯の裏面を善く掃除すべし世人多くは歯の前面(表)のみを磨きて裏を清潔にする事を知らず
新潟の東北日報に左の記事を讀みし事あり
「中上川彦次郎は至極無藝の男で碁も將棋も知らず唯喰ふこと許りで新橋花月樓の料理人を抱え田舎料理も研究させ一令の下に天下の料理か出來るとは贅澤の至り其上雪池翁を學んで長飯には給仕の下女も座り疲労れるとは人ごとに一つの癖はある

もの」と雪池翁は則ち福澤先生なり(諭吉＝雪池)

獨醫ユルゲンゼン氏其著書に曰く「胃病患者には藥劑を與ふるよりも先づ彼をして齒科醫に到らしめよ」と是れ善く嚙ましむるの意に外ならず

古話に「鶴は千年、龜は萬年」といふ一説に鶴は之を解剖するに食胃に滿ち龜は其半に及ばず龜の鶴よりも長壽なるは其食の尠きに因ると又大食を戒めたる諺に

「大食胃に滿れば學問腹に入らず」

獨逸の諺に

「充滿せる腹は好んで學ばず」

又獨逸の諺に

「吾人は喰ふ爲めに生きるにあらず生るために喰ふなり」と

西洋人は朝より洋食を始め毎日三度所謂洋食を爲すと思ふは誤なり西洋人たりとも吾人の普通洋食と稱するものを一日三度一年三百六十五日喰へる者にあらず洋人の朝食といふは「パン」少々に「コーヒー」一杯(之に牛乳を入るゝは普通)之に前日の殘肉一片位が關の山、晝は「パン」に魚、獸肉の二皿位、夕食には普通の吾人の稱する洋食(五十錢價格位の者)、之を普通とす西洋にても貧乏人は一週間に一度(日曜日)肉を買ふも平日六日間は芋(ポテトー)にて凌ぐものなり獨逸の諺に「鹽とパンは頰を紅くす」といふ事あり紅顔は即ち健康といふ事「パン」と鹽さいあれば健康なりといふ意味にして美食大膳の不必用をいふなり、

英語にて朝食を「ブレッキ、ファスト」晝食を「チフイン」(東洋にては「ランチ」と稱し夕食を「サッパー」といふ吾國人の普通に英語の「チンナー」を毎日の晝食と譯するは誤れり「チンナー」とは大餐といふ事にして來客に供する珍膳をいふ又以て西洋人の敢

て大美食ならざるを知るべし
一菓子の類(間食)は食事以外の時に之を用ゆべからす
一茶も食時以外には良しからず
「生水(なま水)は食時のときなりとも用ゆべからず
生(なま)のものさへ口にせざれば殆んど總ての傳染病を豫防し得べし
食器にして患者の用ひたるものは使用後熱湯を以て洗ふべし總て肉を煮るには鍋の中の水煮沸して後に肉を鍋の中に入るべし鍋の中の水冷き時に肉を入るれば肉中に含みある滋養の分素は肉を出てゝ鍋中の水即ち汁に移り入るものなり

(未完)

臺灣へ初めて渡來せらるゝ人の爲めに

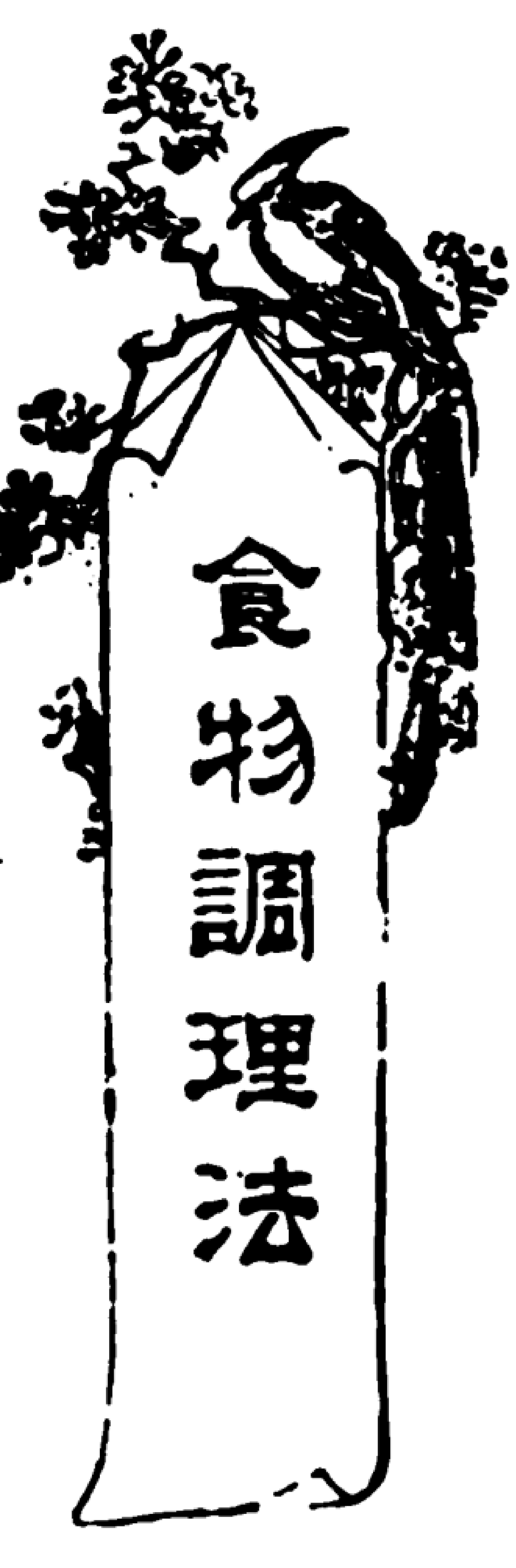
此篇は在臺灣贊成員松住臨太郎君より衛生家の談を抄記して態々寄送せられたるものなり

内地の雨季は五月雨の降りしきる頃なれども差して病氣の多いとも思はなんだが臺灣の雨(専ら臺北に就ていふ)十一月に入れば曇天多く細雨が降り出し音して降ることは少ない、そして幾日も／＼曇りて容易には晴れない雨天又は曇天なれば寒さは日に日に増して熱國と思ひ居たる臺灣で此寒氣を受けようとは思ひの外であると喞つ人もある又此季節に入れば寒さはかりでなく色々な病氣が流行して來る、それは何故かと申せは曇天又は雨天には空氣が濕つて來るから時候が寒くなる濕つた空氣は空中に遊離する有機物即ち種々な微菌を養成し初めて光線の受け方が少なく人の身体の皮膚が弱くなつて外氣に抗抵する力が薄い處を襲ふ事になるから來年の三四月頃迄の此雨季に病人が多くなるのである其病氣の種類はといへば感冒、僂麻質斯、呼吸器病、麻剌利亞、

赤痢、腸胃病等である
僂痲質斯は急激なる寒暖の變化により又冷温の氣に觸れて發するもので此病に罹るゝは大抵多血質の者に多い慢性となると氣候の變り目と外部の空氣が濕る時とに疼痛を感ずるのである。呼吸器病は空氣が濕て居て種々の不潔物を混じた空氣を呼吸するから人身の健康を害して恐るべき疾患に陥らしむるのである喉頭氣管、氣管支加多兒、肺病、肋膜炎などである。マラリヤは雨季に起り易い外氣が濕つて躰温に異常を生ずれは悪寒を感じて發するものである。腸胃病は雨季には外出の不便なるより運動不足となり自然消化機能の働が鈍くなり又食物も濕氣の爲めに腐敗し易くなる消化力の弱い時に腐敗に傾いた物を食すれは赤痢病等を起すものである
雨季になれば人の心も兎角不快を覺するものであれば勉めて心氣を爽快に持たねばならぬ濕ッた空氣は寒冷であれば人々躰温を十分に保つ覺悟をせねばならぬ、所で最も肝要なるは膚に密着するはだ着、襦袢を清潔にし汗垢等によりて濕りたるものは甚宜しからず此等は着るときにヒヤリと感するものなれども着て後に其悪感に馴るゝといへどもつまりは躰に宜しからず兎に角雨季には衣服を乾燥して着することが第一である夜に入れば空氣は一層濕り勝で人の身躰は睡眠中には機關が沈靜して躰温も減ずるから衾蓐は注意して寒氣を感せぬ樣にせねばならぬ、臺灣は濕氣地であるから赤痢、腸窒扶斯、黴毒等の傳染病が流行し易い夫故雨季には勉めて室内を乾燥せしむる爲に火鉢に火を絶やさす置きて可成家内の濕氣を防がねばならぬ又室内に光線を採る事は肝要であるが光線を入るゝが爲めに室内に濕氣を入れぬようにせねばならぬ
衛生に就ては何時とても油斷は出來ぬもので雨のあ

がつた後は又一層注意せねばならぬ事がある何故と申せば雨中は空氣が濕つて居つたが晴れるとなると今度は雨の爲に濕つた地が日光の爲に照されて汚氣が蒸發する、其が必す空氣中に混ずるが、空氣はまだよく乾燥して居らぬので、黴菌を殺すだけの勇氣はなく却て黴菌を製造することになる、先づ此時は夜具を室外に乾かし毛布も同じく乾かし、室内を開放して他の新鮮なる空氣を流通せしめ時々に床下を掃除して例の石灰を撒布せねばならぬ醫師の實檢に依れば雨季のあがりに赤痢とマラリヤ、腸窒扶斯患者は非常に多くなるさうである、洪水の後に著しく患者が殖るのを見ても此事實は證據立られる、即ち割合に夏は照り續いて空氣が全く乾燥して居るから諸種の黴菌が發生する勇氣がないのみか空氣が決して之を寄せ付ない、兎に角病氣の發するは素より身躰の強弱に依るので必しも雨季であるからどうの斯うのと云ふではないが雨季はこれ〳〵であると云ふ事だけは人々心得て置てよい事で有ろうと考へる

（完）



衞生料理法（第四）

橫井たま子

◉正月用菱餠

常の白餠を薄く四寸四方に切り此中へ味噌あんを入れ菱形に折り之を西洋鍋にて蒸燒にす、又略せば金あみにて燒くもかなり此菱餠は京都の上々方にて東京の雜煮の如くに行れたるものを今少し折衷したるなり

御婦人方は松の內より後れて年始の禮にいらせらる

れば此菱餅を一ッ奉正紙を折すへにして其上に載せ膳の上にすへ箸をつけて外に重づめの肴を取り添へて出すべし珍ら敷て興味わるなり

味噌わんの拵へ方は白いんぎん豆を柔かに煮て裏ごしにし白味噌をよく摺りて之を裏ごしに味噌一斤に豆一合位の割によく摺り交ぜ白ざとふを入廿くなしたるものなり餅を當分柔らかに貯ふるには壺か又は飯づき杯に入布巾を水にてよく志ぼり上にかぶせて蓋をなし置けば當分柔らかに貯へらるゝなり其つど〳〵味噌わんを入て燒くべし

◉芋かん

薩摩芋二百目　〇干藻二本〇白砂糖半斤、始め干藻を水にて洗ひ小さくちぎり水五合位鍋に入れてよくとけるまで煮て篩にて漉し芋は蒸して（略には皮をむき薄くきりて湯てもよし）篩にて裏ごしになし干藻の煮汁にてつぶ〳〵の出來ぬ樣にだん〳〵とゆるめ砂糖を加へ香味には山葵か生姜の卸し汁のみしぼり込てとろ火にて煮つめ火よりおろしたる時食紅少しとかし入れ而して重箱か、切りだめ、のやうなるぬり物にて一寸位深きものに流し込、朝に作れば夕には固まるなり器より出す時は庖丁にて器の廻りをきりはなし盃の上にさかしまにかへせば芋かんは形のまゝ出るなり之を拍子木形りに切りて口取り物盛合の他の付合によし又正月の重づめものによろし

◉鰹の鯑の味噌和

鰹の鯑を水にて洗ひ五分位にきりわけ鹽と醤油にてよく〳〵もみ而して篩に上げて汁をしぼり白味噌をよく摺り唐からしの粉を味噌の中へ摺り込みて鰹の鯑をあへて器に入れ湯で玉子の黄味斗りを荒目の毛篩にて漉してあへものゝ上にかけて出すべし

◉鹽鮭の豚のハムもどき

鹽鮭をさし身庖丁にて薄く大きくさしみの如くそぎ

牛酪か(脂肪又は胡麻のあぶらにてもよろし)を塗りつけ金網にて炙り(ばり〳〵になる樣に燒くべし)皿に三切位盛りあしらへには三ツ葉又は芹、萵苣の類少々添へソース、又は橙酢をかけて出すべし

◉貝のはしらの吸もの

はしらを洗ひて水を切り椀に入れ(大匙に一ばい位)て清汁の煮へ立たるを掛けるなりあしらへには三ッ葉か淺草海苔但し三ッ葉は生にて一寸位に切るべし

◉長崎の甲必丹飯

鯛を三片に卸し肉を薄く作り身にし首、尾、及ひ骨と除り大きからぬ分は細かに切りて金網に懸けて能く燒き藥研にておろし(或は碎きて擂鉢にて擂りてもよし)又燒味噌にて汁を作りて此燒粉を交合せ、食するには飯を椀に盛り前の作り肉をのせ其上に汁を懸くるなり香味は、山葵、陳皮の粉、葱のみぢん切、大根卸し杯宜し

●此甲必丹めしには酢の物を添へて出すべし

◉鹽鱈の膾

鹽鱈を鹽出し厚く作り身にし湯で〻皿に盛り獨活のせん切を暫時水に浸し置き之をあしらへになし芥子酢、懸けて出す之も新敷味ひなり

◉婦人向きのたぬき汁

さつ摩芋の皮を剝き大根おろしにておろし少し計をしぼり横長く丸め胡麻の油にて揚るなり味噌汁に(あま味噌よろし)燒豆腐、竪横にきりさ〻がし午房にちぎりこんにやく

◉男子向きには

さつ摩芋をのぞき豚の肉を油にてよく煎りつけ他の仕方は前と仝じ

◉大根の三輪漬

大根の皮を剝き二三寸位の長さに輪切りにし庖丁を竪目に入て櫻、梅、菊の花又は半月形、等に切り小

口より薄く切り半日計り極く淡鹽に漬重石を載せ置きしかして後柚子の皮のみを薄く一寸位の長さに切り赤唐がらしをも二分位にきり別の鉢に前に鹽漬したる大根の水をよくしたし鉢か、壺の中に入れ一トかはごとに柚子と唐がらしをふりかけ、さらに其上から三杯酢をかけるなり三杯酢の拵らへ方は酢に白砂糖と鹽少し加へ加減してかけるなり半日過ぎれば食せらるゝ又何日にても貯へおかるれども五六日間の後に度々に拵らへる方味ひよろし客に出す時は小鉢に大根の合く〳〵へ柚子と唐がらしを色どりに添へて出すへし

◉●●●御斷り　衛生叢談及び看護法は記者何れも感冒の爲め原稿〆切の期日に間に合はず幸ひに寛恕せられよ、

中外彙報

◉腦力永續法

學者文人政治家の如く主として腦髓を働かす者が如何にせば其腦力に疲勞を來する少なくして多くの事務に堪へらるべきやとは衛生家及び躰育家の間にいろ〳〵說わることとなるが此程米國のリランド氏と云へる人が述ぶる處によれば先づ第一朝起の時間を六時なり五時なりに一定することとなりこれは同氏の夫を經されとも昔より知れ渡りたることとなるが扨て同氏の新案と云ふものは夜寢る前に明日なすべきことを心中に決定し置くこととなり然らば起き出で事に當るに意志が恰も睡眠術によりて左右せらるゝが如く能く一定の方向に運轉して事務を運び易く從て腦力も疲勞すること尠しと此は同氏の實驗に基きた

るものなりといふ

◉昨年中の赤痢病

昨年初發より十二月二十日に至る全國赤痢病患者總數は四萬四千百七十七人死亡一萬百四十一人にして一時は稍猛勢を呈したるも一昨年に比して其半ばにも及ばざりしは防疫法宜しきを得たると衛生思想の多少發達したるとに因るものならんか各地方の内昨年最も猖獗を極めたるは新潟縣にして患者六千七十三人、死者千五百四十七人を出し之に次ぐは福島(患者三千三百廿三人、死者六百六十四人)、神奈川(患者二千九百十九人、死者六百九十七人)、長野(患者二千八百廿七人、死者六百五十九人)、青森(患者二千七百九十二人、死者五百三十四人)等にして患者の發生僅に百人以下に止めたるは佐賀(患者五十二人)、死者十七人、沖繩患者六十七人、死者十八人)、福井(患者九十五人、死者四十一人)の三縣なりし、

◉蠅と腸窒扶斯

英國ウエルス、メリチル市にては此程腸窒扶斯非常に流行したるを以て同市衛生官吏は蠅の恐るべき同病傳播者たる事を市民に警告したりといふ蠅の腸窒扶斯に於けるは恰も蚊の「マラリア」熱に於けるが如くにして埃及南亞非利加及印度等の蠅多き土地には腸窒扶斯最も多く流行すといふ

◉蚊と「マラリヤ」

蚊は「マラリヤ」熱の最も恐るべき傳播者なることは夙に學者間に是認せらるゝ所なるが嚢にリバープルより「マラリヤ」流行地なるニゲリアに赴き此程歸國したる同病研究隊の報告によれば其一行は四ケ月餘流行地に滯留し其間毫もキニーネ等の藥品を用ゐざりしに一名も同病に感染せざりしは全く蚊帳を以て蚊の螫刺を充分に且嚴重に防ぎたるにあり云々と特記せり

●昨年中のペスト

昨年初發より十二月二十日に至る全國のペスト患者總數は百六十人、死者百四十七人にして之を地方別にすれば左の如し

	患者	死者		患者	死者
大阪	一二一	一一四	靜岡	一九	一九
兵庫	三	三	和歌山	一五	九
長崎	二	二			

●結核病と職業

獨逸に於て調査せる人口千人に就き結核の爲に死亡し幷に百人に就き罹病するものゝ職業別を見るに左の如し

職業	人口千人に付死亡	人口百人に付罹病
塵埃を發せざる職業	三八一、〇	二、三九
塵埃を發する職業	四八〇、〇	五、四三
金屬粉を取扱ふ職業	四七〇、五八	五、八四
銅粉を取扱ふ職業	四〇三、七	五、三一
鐵粉を取扱ふ職業	五〇一、〇	五、五五
鉛粉を取扱ふ職業	四〇三、四三	七、七九
礦物粉を取扱ふ職業	五三七、〇四	四、四二
有機物粉を取扱ふ職業	五六五、九	五、六四
毛布を取扱ふ職業	五五四、一	四、四五
綿布及綿花を取扱ふ職業	五〇七、五	五、三五
木材及紙を取扱ふ職業	五九八、四	五、九六
煙草を取扱ふ職業	四七八、三	八、四七

●脚氣病毒の發見

英國外科醫イー、アール、ロスト氏は緬甸メイクチラに於て多年脚氣病毒の研究に從事したる結果遂に脚氣病と米穀、ジョワリ穀及米より搾取せる飲料等の中に伏在する顯微鏡的胚種との關係を發見し之を印度醫學雜誌上に公にしたるか氏の實驗に依れば脚氣病は全く米及米より搾取せる飲料中に在る胚種より生するものにして此胚種は如何なる高度の熱にも堪ゆるを以て假令米穀を炙煮するとも決して其害毒を撲滅する能はずと云ふ果して如何のものにや

●歳と病

本年庚子の春はペスト騷ぎにて鼠を苦め、明年は辛丑なれば豬口瘡といふ病發生して牛を苦む。此分で

押行かば次年は虎烈刺なりと老人の取越苦勞するも可笑しと時事新報に見ゆ。呵々。

◉鵞口瘡やむ

鵞口瘡は最早終期に達したれば警視廳にては牛羊豚の出入停止を解く由にて其區域を詮議中なりと

◉馬の流行性感冒

去月中旬より馬の流行性感冒(インフルエンザ)大に流行し東京府下に在る陸軍各隊、諸學校、主馬寮並に馬車鐵道の馬匹を始とし個人の持馬に至るまで殆ど之に罹らざるものなく爲に幾多の損害を釀し大に使役上の障碍を來たし府下に於ては病勢稍々衰退に傾けるも各地尙ほ其傳播なきを期し難しとて農商務省は其病性、原因及豫防法等を公にしたり

◉臨時種痘の結果

昨三十三年春秋二季の外痘苗製造所に於て臨時各區に出張所を設け適齡者に接種せし結果は市内十五區に於て接種せし人員三六〇、六其の內點檢を受けしもの三、三八三、其の受けざるもの二二三、善感者三、一九九、不感者一八四にして頗る好成績なりと

◉流行感冒の注意

東京及横濱市には昨今流行感冒性の流行甚だし神奈川縣廳にては此際衞生に注意し職務を曠廢せしめざる樣吏員へ內訓を發したりといふ



◉帝國大學醫科大學第一第二醫院案內

醫科大學第一醫院は本郷元富士町にあり森川町通左側の赤門即ち是なり其他の入口は龍岡町通に南新門あり又俗に鐵門と稱するものあり赤門を入り少許にして外科の正面に出づ同醫院には目下病室百二十七

ヶ所ありて患者三百五十餘名在院せり今や狹隘なるが爲め改築中なりと又外科手術室の如きも目下建築中にて極めて完全なるものなり第一院長は青山胤通君第二院長は佐藤三吉君にして兩院とも何れも博士學士の淵叢なり

先づ患者の初めて外科に關する診察を受けんとするときは當日午前七時迄に族籍其他を認めたる紙片（左記の如く成るべく半紙四つ切り位ひを便とす）を玄關受附に差出し置き番號札を受取り（代理人にても差支なし）患者は八時前に必らず來院すべし診察の時にわたりて患者控所にをらざるときは如何なる事由あるも診察を受くることを得ざるものなれば厚く注意することを要す若し又順番に誤りあるか又は其他の處置に付不審のことあるものは口頭又は書面を以て事務室に申出ずべしされども匿名は採用せざることゝなり居れり

尙玄關に掲示せる注意を見るに左の如し

近來醫院の內外において患者に代り診察又は入院等の手續をなすものゝ內には往々不正の業ありて種々の名稱を設け患者に出金を申し勸むるやに相聞候處

元來醫院に於ては

入院患者よりは ｛入院料
　　　　　　　　｛看護婦貸料　看病婦を貸したるときに限る

外來患者よりは ｛藥代
　　　　　　　　｛雜品代　藥瓶　繃帶等の代

右の外一切金錢を徵收することとなし故に其外の名目を以て出金をすゝむるものは必らず不正の業に相違なければ嚴重の處分をなすべきに付若し右樣の義を申し勸めらるゝか又は見聞したるときは何人に拘はらず速に其趣を事務室に申立てられんことを希望す

診察の順番　藥價其他代金の徵收方又は藥品受渡し

の順番等につき不審の廉ありと思意するときは遠慮なく其趣を事務室に申し立てらるべし云々

> 診察申込雛形
> 何府縣國郡町村何番地士族平民
> 東京何區何町何番地職業
> 患者　何　之　誰
> 何年何月生

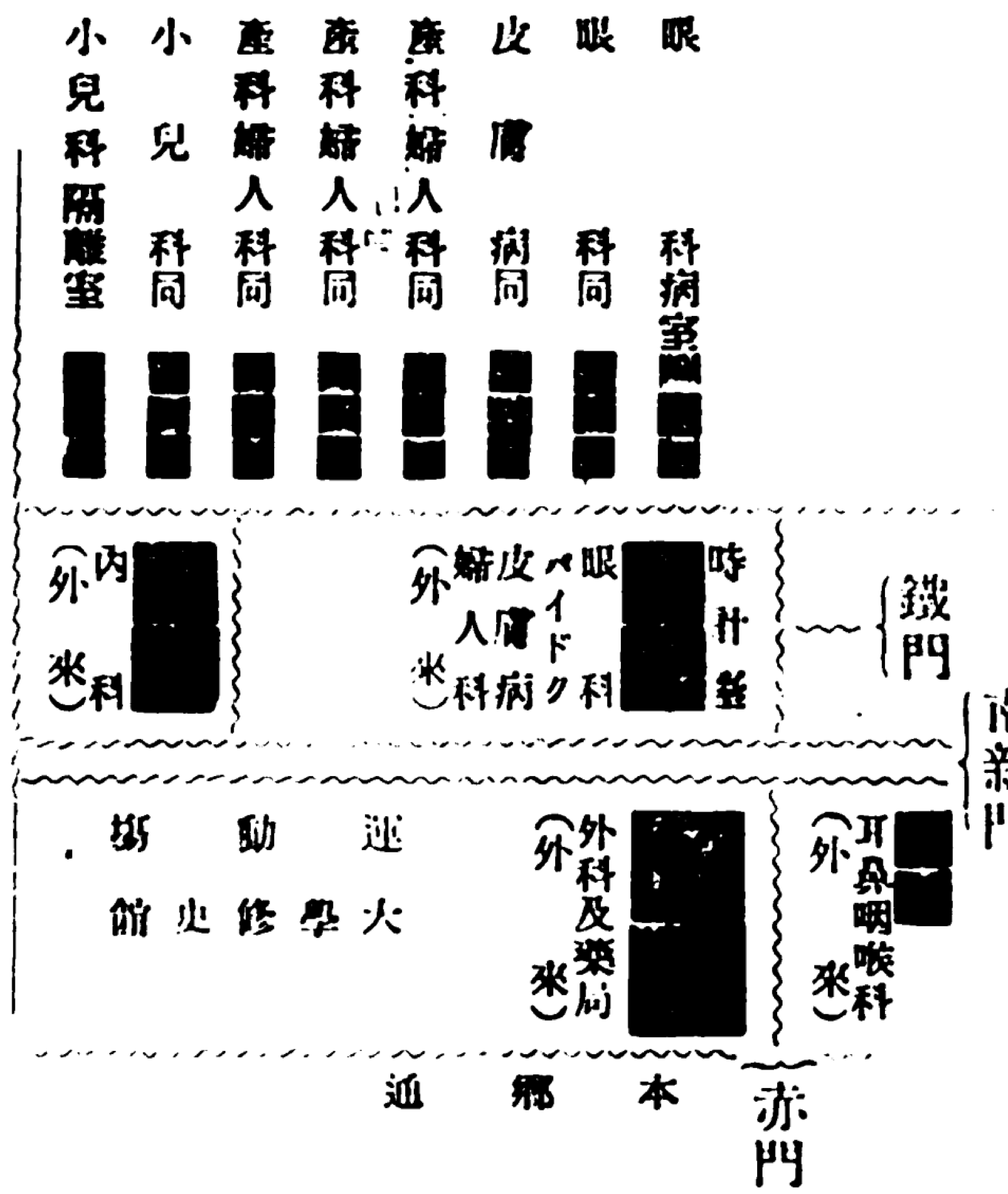
一内外科ともに前にも述べし如く午前七時迄に申込み置くときは何人にても無料にて診察を受けらるべし　内科は南新門を入り（又は外科の前の道を真直に四ッかどに出づ）四ッかどの道を真直ぐに時計臺（眼科、皮膚、黴毒、婦人科、）を右に見て進み大學修史館運動場の前を右折したる處にあり内外科ともに以前は診察定員を定めしが今は別に制限を置かす着到順に七時を限りとして診察することゝなりしを以て大に便なり診察を受けたる后私費を以て入院したきときは診察醫に病室等の都合を聞き合せて入院手續をなすべし若し又貧困にして施療即ち官費入院したるときは直接診察醫に其事情を話し入院許可證を受けて入院すべし但し醫師の見込により入院の必要なしと認むるとき若くは自己の都合にて入院せざるときは醫師の處法箋を以て同所藥局より藥劑を購求し快復に至る迄再來患者として屢々診察を受けらるべし

一官費私費入院手續は別項に記述する處を見て知らるべし

一模範藥局　外科玄關の突き當りにあり入院患者は勿論外來患者の藥を調劑する處なり藥劑の調合を乞はんとするものは先づ醫師より與へられたる處法箋を藥價受取所に出し其藥價を拂ひて後藥局へ往き藥品を受取らるべし

今玆に大學第一醫院の略圖を記して諸氏の參考に供す圖中（外來）とあるは總て院外患者の診察を受けに

行くべき處なり



外來患者診察日割

內科

新來(初めて診察を受けに來るもの)

三浦教授　水　金　午前九時より
入澤助教授　火　土　仝上
橋本助教授　月　木　仝上

再來(二度目以上診察を受けに來るもの)

助手　火　木　土　午前九時より

外科

新來

ドクトル　スクリバ　水　金　午前十時より三十人
近藤教授　火　木　土　午前九時より二十五人

再來

助手　月　水　金　午前九時より

眼科

新來

河本教授　月火水木金土　午前八時より

再來

河本教授　仝上
助手　月火水木金土

產科婦人科

新來

木下教授　火　木　土　午前九時より

再來

木下教授　仝上
助手　火　木　土

小兒科

新來

弘田教授　月　水　金　午前十時より

再來
- 弘田教授
- 助手

火木金 午前九時より

皮膚病科

新來
- 土肥教授 月水金 午前九時より

再來
- 土肥教授 仝上
- 助手 月水金

耳鼻咽喉科

新來
- 岡田教授 月水金 午前九時より

再來
- 岡田教授 仝上
- 助手 火木土

脚氣病科

新來
再來
- 助手 火木金 午前九時より

但し大祭祝日及急病患者は此限にあらず

注意　病室來訪時間は總て左の通り

病室來訪時間　午后一時より仝五時迄

外科及事務室用電話番號　本局四百四十六番

産科婦人科小兒科　本局四百四十四番

◉帝國大學醫科大學第二醫院

第二醫院は神田和泉町にあり内科外科の診察治療に應ずることは總べて第一醫院に同じ

第二醫院外來診察日割(電話本局八百四十二番)

内科新來
- 青山教授 火木
- 入澤助教授 月
- 橋本助教授 水土
- 助手 金

外來新來
- 佐藤教授 火木土
- 助手 月水金

眼科新來
- 甲野助教授 火木土

◉大學醫院の產科往診

本誌にも豫て廣告し置ける如く大學醫院にては東京市內に住居する妊婦にして出產時同院に至り診察を受け難き場合に往診を依賴するときは同院は產科專門の醫學士を派して診察せしむ但し其申込みは使ひにても電話にても差支なしといへども（產科電話は本局四百四十四番）可成產婆などより依賴すれば好都合なり如何となれば產婆なれば其模樣を大凡報ずることを得るが故に醫師も其用意して器械等を特參するの便あるを以てなり右往診は晝夜ともに差支なし但し右の如く往診すといへども車代診察料及び其他の費用を要せざるなり又九ヶ月以上の妊婦にして入院を請ふものは診察の上官費又は私費を以て入院を許すものなり

（未完）

大日本婦人衛生會記事

◉一月新年會

一月十二日第二土曜日午后一時より本會の例會を麴町區三年町虎の門內東京女學館內に於て開たり本會總裁小松宮周子殿下には午后二時御臨場あらせられたり役員一同玄關に奉迎濟尾副會長御先導申し上げ設けの室にて御小憩の上會場へ臨ませらる此際一同起立敬禮す理學博士箕作佳吉君には蚊の話に就き蚊と麻剌利亞熱との關係を詳細に演說せられたり次に岡山孤兒院賛助員募集の事に就き本會役員の紹介あり鳩山夫人にも尙言葉を添へて同院の爲め助成せられたり次に今回募集の爲め出京せられたる大西氏は同院の近狀に就き其大略を述べ規則書等を配布して賛助を求められたり次に東京女學館生徒の「ピヤノ」に和せる唱歌の合唱あり右終りて例年に因み役員寄附の福引を開始せり此際會場の光景を撮影す總裁殿

下には（國家の干城、瓶子、即兵士）といへる者に御當籤遊ばされ御機嫌いと麗はしく御歸館在らせられたり福引は初め一々讀み上げ居りしも時刻の遅れし爲め三々五々籤と品物と引き替へしが排列の宜しからざりしため多少混雜せしも却つて賑はしくいと盛んなることとなりき右終りて會員一同野外撮影をなす筈なりしが是又時刻遅れしが爲め歸宅せられしもの多く僅か少人數の撮影に止まりしは遺憾なることとなりき當日役員には濱尾副會長、鳩山、高木、三浦、羽田、岡田、宮本の諸氏及川口男爵夫人以下會員及女學館學生を併せて四百五十餘名に達し例年に勝る盛會なりき

◉當日總裁殿下には福引等の事を聞こし召され當日の會合へ左の如く下し賜ひたり

一金拾五圓也　　總裁殿下より當日の會合へ

◉岡山孤兒院　同院は石井十次氏の創設に係り茲に十三年全國より救育せる孤兒の數五百五十餘名に上ぼり今尙二百七十餘名を撫育しつゝありとされども同院は充分の資金あるにあらずして慈善家の寄附贊助員の贊助金及全國停車場備へ置きの投入金と孤兒等實業部の收益を以て漸く維持し來りたるが事業はます〳〵膨脹せるを以て少數の力にては到底維持の覺束なきにより全國慈善家の贊助を仰がんとて先づ同院の大西外數名の事務員諸氏出京して目下奔走中なり余は同院孤兒の寫眞帖を見て轉々愛憐の情に堪へざりき同院には孤兒の實業部活版理髮音樂隊等ありて世間の實業を助けつゝありといふ今回贊助員募集の事あるや本會の濱尾、鳩山、高木、德富、令夫人を初め近衞、大隈、大山、其他二十餘名の貴婦人は其總代となりて贊助員募集の事を圖らるゝといふ誠に奇特の事と云ふべきなり

因に記同院の贊助員に加入するものは每年金壹圓

を寄附するものとす東京假事務所は神田區錦町三丁目五番地山下館なれば申込書は同所宛送付せらるべきことなり

◉本會新年會の節贊助員募集の事を紹介せるや慈悲に厚き本會會員は立ちどころに貳拾餘名贊成加入せられたりとて事務員諸氏の喜びて話されしことなりき特に感ずべきは東京女學館職員生徒諸氏の此事を聞けるや直ちに金五圓を同校主幹なる西田氏の手を經て孤兒院へ寄附せられたることとなり尚生徒中にも贊助員に加盟せるもの多しといふ

◉東京女學館西田敬止君には本會新年會々場借用上は勿論會日大枝氏及同校職員と共に本會のため種々便宜を與へられたり茲に謝意を表し會員に報ず

◉臺灣通信（松住氏報）

●在臺灣贊成員松尾宗幽氏より左の如く本會へ寄附せられたり

一金壹圓　松尾宗幽君

●在臺灣高島虎雄氏には鳳山地方出張の際本會々員勧導のことを圖られしといふ茲に謝意を表す

◉本會新年會寄附連名

本會新年の福引費中へ役員諸氏より左の如く寄附せられたり茲に掲げ謝意を表す

（姓名イロハ順）

金貳圓　濱尾作子
金貳圓　嶋山春子
金貳圓　男爵夫人 西靜子
金貳圓　穗積歌子
金貳圓　高木かう子
金壹圓　松平芳子
金貳圓　三浦敏子

金參圓　男爵夫人　岩崎早苗子
金貳圓　羽田三緒子
金壹圓　西升子
金壹圓　德富靜子
金五圓　伯爵夫人　大隈綾子
金壹圓　緒方悅子
金壹圓　岡田德子
金壹圓　男爵夫人　加藤鈴子
金壹圓　加藤常子
金貳圓　子爵夫人　田中以代子
金壹圓　丹波貞子
金壹圓　男爵夫人　南部隈子
金壹圓　中濱芳子
金貳圓　伯爵夫人　松平充子
金參圓　子爵夫人　秋元宗子
金壹圓　木内磯路子
金貳圓　宮本樂子
金貳圓　三井晴子

合計四拾四圓也

◉仁禮會長には忌服中の故を以て出席せられざりしが今般左の如く本會へ寄附せられたり

一金貳拾圓也　會長仁禮壽賀子より

謹賀新年

併而祈會員各位ノ健康

明治三十四年一月　私立大日本婦人衛生會　事務所

追白會員諸氏より匆々賀狀を送與せられ萬謝に堪へず一々答禮可仕の處會務多端の折柄左に尊君を揭けて謝意を表す(順次不同)

日本橋　樋口八重子●新潟支會●山形支會●長野　横田岩子●石見　竹中春子●福島　阿部敬子●鎌倉より松平芳子●酒田　本間ふじ子●麻布　辰巳富野子●第一醫院　橋本ひで子●深川　谷崎直子●牛込　小澤卯之助君●麻布　南部隈子●麻布　玉木豐子●青森　竹中もと子●麴町　時岡久米●熊本　秀島はつ子●長崎　毎熊かめ子●麴

町　岡野德子●同　高瀬さと子●日本赤十字社　千葉てる子●神田須田すゞ子●赤坂　橋本千世子●信州　折橋あき子●麹町　中尾しげ子●山形　和田あい子●神戸　三田あさ子●信州　碓田ぶん子●大阪　仙田花子●熊本　西島みれ子●荻原浪子●芝　加藤つる子●横濱　磯部くに子●江尻　河野かつ子●岐阜　高木みさを子●赤坂鈴木八重子●神田　堀かた子●麹町　鈴木つる子●本所　山本き代子●周防　兒山すみ●芝　河島ぶん●大坂　久瀬き代子●松江圖書館　木幡久右衛門君●神戸　前川照子●甲府　武藏秀直君武田濟一郎君●大坂　岡田みす子●四谷　松平光子●遠州　松島臨太郎君松尾宗幽君小澤册之助君森利平君諸氏

●本會入會者

○小石川　笠井梅野子紹介
●大坂西區北堀江通五丁目五十番邸　通常會員　村山ふく子

○芝　奥山とし子紹介
●赤坂區新町三丁目四十四番地　通常會員　長谷川たき子

○函館堀野ゑみ子紹介
●函館區天神町九十三番地　通常會員　岩政律子

○事務所申込
●神田區美土代町一丁目十八番地　通常會員　由水つね子
●神奈川縣藤澤大坂町　贊成員　寺田一郎君
●豐多摩郡角筈村百二番衛生園　通常會員　橋喜久子

○函館　堀野ゑみ子紹介
●函館區中濱町三番地　通常會員　辻りか子
●函館區大町三十三番地　通常會員　辻むめ子

○麹町　松井正子紹介
●麹町區飯田町六丁目二十番地　特別會員　松井倫子

○事務所申込
●北海道函館仲濱町三番地　通常會員　辻りか子

○小石川　濱きん子紹介
●横濱初音町山手　通常會員　荻原はま子

○京橋　石崎久子紹介
●本郷區湯島三組町八十一番地　通常會員　宇田川利子

○八王子　荊原萩子紹介
●南多摩郡小宮村西中野　通常會員　山田稲次子
●北多摩郡拜島村庶瀬方　通常會員　内島幸子

○大坂　岡田美壽子紹介
●江田島兵學校官舎　通常會員　竹内うら子

○事務所申込
●岡山市内山下矢吹内　通常會員　小出梢子
●神田區鍛冶町七番地　通常會員　堀内ゑん子

○日本橋　樋口八重子紹介
●淺草區西三筋町五十四番地　通常會員　西田浦子
●下谷區北稲荷町四十八番地　通常會員　荒木てつ子

○麹町　中尾しげ子紹介
●麹町區永樂病院内　通常會員　中澤しゆく子

○第一醫院　橋本ひで子紹介
●京橋區新肴町十番地　通常會員　齋藤政子

○賛成員　小澤卯之助君紹介
●牛込區揚方町二十五番地　通常會員　川添はる子
○牛込　志岐久子紹介
●大坂市東區西玉造千二百九十三　通常會員　大迫隆子
○本郷　齋藤竹子紹介
●本郷區西片町十番地ろノ八號　通常會員　祝のぶ子
○第一醫院　香取隆子紹介
●本郷第一醫院　通常會員　柏田くに子
○上海　小山切桂子紹介
●清國上海日本總領事館內　通常會員　竹崎さと子
○長野　横内いわ子紹介
●長野縣東筑摩郡松本町字幅上　通常會員　武居はる子
○小石川　鳩山春子紹介
●麹町衆議院　通常會員　林田文子
○麹町　鈴木つる子紹介
●麹町宮脇病院內　通常會員　富田のり子
○麻布　門野駿子紹介
●志摩國志摩郡波切村藤兵衛方　通常會員　高橋いとの子
○赤坂　羽田三緒子紹介
●静岡市安西町一丁目片桐久米吉方　通常會員　長田菊子
○神田　堀かた子紹介
●麻布區笄町九十四番地大石正直方　通常會員　大石花子

○横濱十全病院　磯部くに子紹介
●横濱十全病院內　通常會員　齋田ちやう子
●仝　通常會員　內田くに子
●仝　通常會員　飯田とよ子
○役員　中濱よし子紹介
●醫學大學第一醫院婦人科三之側　通常會員　野島のぶ子
●麹町下二番町同生病院內　通常會員　細井さわ子
●仝所　通常會員　竹內せん子
●仝所　通常會員　那古屋すゞ子
●仝所　通常會員　渡邊はく子
●仝所　通常會員　吉田せつ子
●仝所　通常會員　内山元雄子
●仝所　通常會員　須山なを子
●仝所　通常會員　日高もと子
●仝所　通常會員　細井みゆき子
●仝所　通常會員　伏田つる子

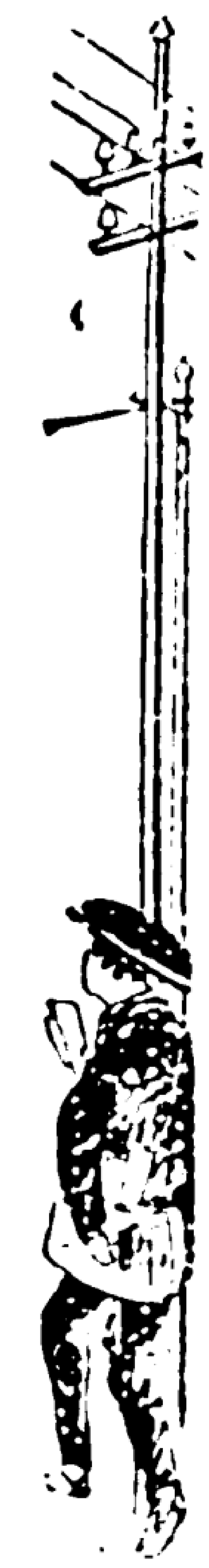
◎會員種類變更

●伯爵夫人久松貞子は當一月より特別會員に變更せらるゝ旨伯爵夫人松平充子より申越されたり

●通常會員樋口八重子にも本月より特別會員に列せ

らる

●改姓　長濱駒子は岸田と改姓（かいせい）せられたり



轉居

●麻布區新網町二丁目五十一番地（新潟より）　三村ひさ子
●麴町區平川町六ノ二十二ミスカー方へ　關壽賀子
●牛込區市谷仲ノ町四十九番地へ　志岐久子
●相州横須賀中里七十一番地へ　清水富喜子
●越後中頸城郡高田字下小區花井方へ　兒玉さく子
●芝區新濱一ノ一番地へ　渡邊千施子
●台灣台北城南門外民政部官舍丁三號十室へ　平田まさ子
●石川縣金澤市十三間町中町四番地へ　麻生ふく子
●山形縣北村山郡大石田町へ　五十嵐きくぬ子
●麻布區三軒屋町五十二番地へ　辰巳宮野子
●神田區北神保町十一番地へ　須田すゞ子
●青森市新濱町十四番地へ　贊成員　竹中成憲君
●仝所へ　竹中もと子
●熊本市廠の內町十五番地へ　秀島けつ子
●赤坂青山南町六ノ七十六番地へ　橋本千世子
●麴町區下六番町四十八番地へ　淺田みね子
●麴町區平河町五ノ十二番地へ　松下貞子
●豐多摩郡千駄ヶ谷村三百六十一番地へ　乃木千世子
●麻布笄町六十六へ　兒玉悅子
●麻布箪笥町廿四長尾方へ　長濱改メ　岸田駒子
●牛込區若松町三へ　橋本せつ子
●赤坂北町五ノ二へ　桑田つる子
●高輪南町五十五へ　緒方芳子
●奈良市上三條町磯田方へ　伊達梅代子
●安藝國矢莊山田字鄉百六十八へ　石黑與志子
●小石川高田老松町二十一番地へ　贊成員　布施正顯君
●甲府市愛宕町百一番戶へ　水谷とみ子
●横須賀縣ヶ谷鎭守府官舍へ　向山靜子

●宇都宮支會の成立

本會贊成員醫學士淺田次君の盡力により今般本會の宇都宮支會成立し來月三日發會式を擧ぐ（詳細は次號に讓る）

謹賀新禧

併而祈各位健康

明治卅四年一月

盛業堂藥局
藥劑師　寺田佐兵衛
藥劑師　寺田一郎
神奈川縣藤澤大坂町
屋號　かまや

謹告

抑藥品の精粗及調劑配合の適否により醫治奏効の如何に關する今更吾人の冗舌を要せさる所なり弊堂玆に感あり曩に一郎義内務省規定の藥劑師試驗に合格し尚進で東京帝國大學模範藥局に於て實地研究の證明を得たる調劑學、藥品試驗法及衛生試驗法一斑の術は始終苟且に付せずして懇篤叮嚀に顧客の需に應候條江湖の諸彦御信用の上益々御愛顧を給はれんことを希ふ

營業科目

醫家處方調劑　滋養諸罐詰
各國藥局法製劑
醫藥、工業用藥品
醫療化學器械

滋養品　スコット乳菓　肉ペプトン　ソマトーゼ　トロポン

衛生消毒材料
消毒綳帶材料
各國製ミルク
藥用滋養葡萄酒

有効賣藥一切
繪具染料品
高等化粧品
線香、燃香、煉香

弊舖儀右發賣品ハ總テ純良精確ナルヲ旨トシ各位ノ需ニ應ズ何卒御信用ノ上益々御愛顧ヲ給フ

私立大日本衞生會

●新潟支會規則

第一條　本會は大日本婦人衞生會に屬し婦人衞生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり

第二條　當支會の會費は左の六種とす

終身會員	一時限り出金	貳拾圓
特別會員	毎月	金參拾錢
通常會員	仝	金貳拾錢
支會員　甲	毎月	金拾錢
乙	仝	金五錢

第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし

第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衞生雜誌を配布す

第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衞生慈善資金とす

第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く

會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す

各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす

第七條　支會は毎月六日通常會を開き衞生及び慈善に關する演說をなすべし

第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を執行す

第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし

第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし

會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし

第十一條　一般慈善事業の賛助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす

第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし

第十三條　特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衞生會の規則を準用す

私立大日本婦人衞生會

●山形支會規則

第一條　本支會は私立大日本婦人衞生會々員山形市在住者を以て組織す

第二條　本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く

會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す

役員の任期は一ヶ年とす

第三條　本支會は毎月一回（第一日曜日）講話會を開き毎年一回（五月）總會を開き講話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす

第四條　入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし

本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし

第五條　本會々費は會計幹事に納むべし

但し六ヶ月　又は一ヶ年分

新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし

第六條　服裝は精誠質素なるを要す

上着及羽織は絹布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

私立大日本婦人衞生會

山形支會

事務所山形市檜物町川上方

（明治二十六年四月四日第三種郵便物認可）（明治三十一年三月二十八日內務省許可）

大日本婦人衛生會規則摘要

一本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究せしめ衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

一會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

一入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込むべし入會者には會員證を交付す但郵券三錢を要す

一會員を分ちて終身特別及通常の三種とす

一終身會員は一時に金拾圓以上●特別會員一ヶ月金貳拾錢以上●通常會員一ヶ月金拾錢を納むるものとす●男子贊成員亦同じ

一男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じと雖も本會に功勞あるもの又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員協議に依り無會費とすることあるべし

一會員は本會に於て每月發行する雜誌を無料にて受ることを得

一退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より又通知すべし但既納の會費は返戾せず

一集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外每月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會するものとす

但每會學識經驗ある者に衛生上の講義演說談話を囑託し會員をして隨意聽講せしむるものとす

一會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を陪聽せしむるを得（勸めて衣服は質素たるべきこと）

一講義演說等は男子の傍聽を禁す但贊成員若くは會員緣故ある男子は此限にあらずと雖も贊成員の外は本會の都合に由り臨時謝絕することあるべし

●支會

一地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

一本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載し申出づべし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報知すべし

一本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす尚詳細は本會事務所へ承合すべし

●注意

一會費は東京府下に限り每月會費領收人を差出すべし地方會員入會の際は前金を以て會費三ヶ月分又は六ヶ月一ヶ年分を納付せらるべし

一會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又通運便何にても差支なし

一會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に郵券三錢を添へらるべし

但止むを得ざる場合には郵券を代用するも妨げなしと云へども總て一割增とす

一轉居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

一會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

本誌定價一部二十錢　每月一回發行

發行所　東京市牛込區矢來町三番地中九、四　私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地

編輯兼發行者　田中德三郎　東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷者　戶上義章　東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所　株式會社秀英舍第一工場